

平成24年9月3日

薬事・食品衛生審議会  
食品衛生分科会長 岸 玲子 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成23年11月18日付け厚生労働省発食安1118第6号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくメタラキシル及びメフェノキサムに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

# メタラキシール及びメフェノキサム<sup>注)</sup>

(別添)

今般の残留基準の検討については、魚介類への基準値設定依頼が農林水産省からなされたこと及び関連企業から「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」に基づく残留基準の設定要請がなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

## 1. 概要

(1) 品目名：メタラキシール[ Metalaxyl (ISO) ]及びメタラキシールM[ Metalaxyl-M(ISO) ]

注) 「メフェノキサム」は、メタラキシールMの別名である。本報告書中では ISO 名に従って「メタラキシールM」で統一している。

メタラキシールは、D体とL体の2つの鏡像異性体を1:1の割合で含有するラセミ体とされる。2つの鏡像異性体のうち、殺菌活性を示すのは主にD体とされ、D体がメタラキシールMと称される。

(2) 用途：殺菌剤

メタラキシール及びメタラキシールMは 酸アミド系殺菌剤であり、菌糸伸長及び孢子形成を阻害することで、特に卵菌綱ツユカビ目の糸状菌に対して防除効果を有すると考えられている。

(3) 化学名

### ① メタラキシール

Methyl *N*-(methoxyacetyl)-*N*-(2,6-xylyl)-DL-alaninate (IUPAC)

Methyl (*RS*)-2-[[ (2,6-dimethylphenyl)methoxyacetyl]amino]propionate (IUPAC)

Methyl *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(methoxyacetyl)-DL-alaninate (CAS)

### ② メタラキシールM

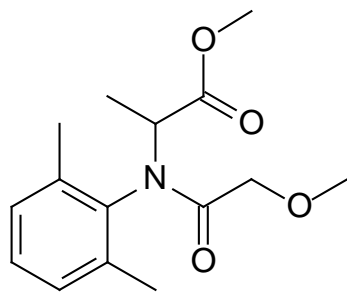
Methyl *N*-(methoxyacetyl)-*N*-(2,6-xylyl)-D-alaninate (IUPAC)

Methyl (*R*)-2-[[ (2,6-dimethylphenyl)methoxyacetyl]amino]propionate (IUPAC)

Methyl *N*-(2,6-dimethylphenyl)-*N*-(methoxyacetyl)-D-alaninate (CAS)

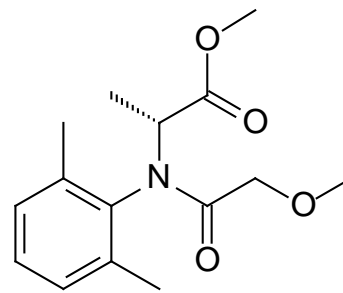
(4) 構造式及び物性

①メタラキシル



分子式 C<sub>15</sub>H<sub>21</sub>N<sub>2</sub>O<sub>4</sub>  
分子量 279.34  
水溶解度 8.4g/L (22°C)  
分配係数 log<sub>10</sub>Pow=1.75 (25°C)

②メタラキシルM



分子式 C<sub>15</sub>H<sub>21</sub>N<sub>2</sub>O<sub>4</sub>  
分子量 279.34  
水溶解度 26g/L (25°C)  
分配係数 log<sub>10</sub>Pow=1.71 (25°C)

(メーカー提出資料より)

## 2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

しゅんぎく、その他のきく科野菜、セロリ、やまいも及びにんじんに係る残留農薬の設定についてインポートトレランス申請がされている。

### (1) 国内での使用方法

#### ① 25.0%メタラキシル水和剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	メタラキシル を含む農薬の 総使用回数
キャベツ はくさい たまねぎ	苗立枯病 (ピシウム菌)	種子重量の 0.3~0.5%	は種前	1回	種子粉衣	4回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 3回以内)
ほうれんそう						2回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は 1回以内)
だいこん						2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌混和は 1回以内)
にんじん						1回
だいず		種子重量の 0.3%			4回以内 (種子粉衣及び は種前の塗沫処 理は合計1回以 内、は種後は3回 以内)	
えだまめ		ピシウム菌 による病害 (苗立枯病等)			種子重量の 0.3~0.5%	種子処理機 による 種子粉衣
野菜類 (豆類(未成熟) を除く)	種子重量の 0.5%					
未成熟 とうもろこし	種子重量の 0.3%					
豆類(未成熟) 豆類(種実)						

② 2.0%メタラキシル粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	メタラキシル及び メタラキシルMを 含む農薬の総使用 回数
稲	黄化萎縮病	6kg/10a	収穫 90 日前まで	2 回以内	散布	4 回以内 (種もみ粉衣は 1 回 以内、移植前の土壌 混和は 1 回以内、育 苗箱への灌注は 1 回 以内、本田では 2 回 以内)
みょうが (花穂)	根茎腐敗病	10～ 20kg/10a	収穫 30 日前まで		土壌表面 散布	2 回以内
みょうが (茎葉)			みょうが (花穂) の収穫 30 日前ま で ただし、花穂 を収穫しない場 合にあつては開 花期終了まで			
しょうが			収穫 30 日前まで	3 回以内	定植前 作条土壌 混和又は 生育期土 壌表面散 布	3 回以内
ホップ	べと病	10～20g/株	株ごしらえ時 ～ 選芽期	1 回	株元土壌 混和又は 土壌表面 散布	1 回
たらんき	立枯疫病	20kg/10a	収穫終了後 (苗の場合は植付 後)～梅雨期	2 回以内	土壌表面 散布	2 回以内
いちご	疫病	10kg/10a	定植時	1 回	作条土壌 混和	5 回以内 (種子粉衣は 1 回 以内、育苗期は 3 回以内、定植時の土 壌混和は 1 回以内)
	根腐病				15kg/10a	
5～ 10kg/10a		植溝土壌 混和				
こんにゃく		5kg/10a	培土時	株元散布	1 回	

② 2.0%メタキラシル粒剤（つづき）

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	メタラキシル及び メタラキシルMを 含む農薬の総使用 回数
ピーマン	疫病	2～3g/株	収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は3 回以内)
パセリ		10～ 20kg/10a	収穫 21 日前まで			
ししとう		2～3g/株	収穫前日まで			
葉しょうが	根茎腐敗病	10～ 20kg/10a	収穫 21 日前まで	1回	定植前作 条土壌混 和又は生 育期土壌 表面散布	3回以内
せり	葉腐病	6kg/10a			散布	2回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は1 回以内)
こまつな	白さび病	10kg/10a	は種前 但し、収 穫 21 日前まで		全面土壌 混和	2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌混和は1 回以内)
チンゲンサイ		9kg/10a	は種時又は定植 時			
みずな		10kg/10a				
ほうれんそう	べと病	9kg/10a	は種時	2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌混和は1 回以内)		
かぶ	白さび病	10kg/10a				
タアサイ		6kg/10a	定植時			
くわい	茎腐病		収穫 21 日前まで	2回以内	湛水散布	2回以内
だいこん	白さび病	9kg/10a	は種時	1回	作条土壌 混和	2回以内 (種子粉衣は1回 以内、土壌混和は1 回以内)
オクラ	疫病	10kg/10a	収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内 (種子粉衣は1回 以内、は種後は3 回以内)

③ 10.0%メタラキシル・65.0%TPN水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
きゅうり	べと病	1000倍	100～400L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内（種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内）
	炭疽病						
	うどんこ病						
	褐斑病						
メロン	つる枯病			収穫3日前まで			
	べと病						
	うどんこ病						
すいか	つる枯病			収穫7日前まで			
	炭疽病						
	褐色腐敗病						
トマト	疫病	500～750倍	100～400L/10a	収穫前日まで	4回以内	5回以内（種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内）	
ばれいしょ	夏疫病	750倍		3回以内	3回以内		
たまねぎ	べと病	1000倍	100～400L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内（種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内）
	灰色かび病						
かぼちゃ	べと病						
はくさい	白さび病						
	ピシウム腐敗病						
	べと病						
らっきょう	白色疫病			3回以内			
ねぎ	べと病			4回以内			
なす	褐色腐敗病			5回以内（種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内）			

④ 10.0%メタラキシル・55.0%マンゼブ水和剤

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用 方法	メタラキシル及び メタラキシルMを 含む農薬の 総使用回数			
ばれいしょ	疫病	500～ 750 倍	-	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内			
たまねぎ	白色疫病						8 倍	1.6L/10a	無人ヘ リコプ ターに よる散 布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種 後は 3 回以内)
							12 倍	2.4L/10a		
はくさい	べと病	1000 倍	-	収穫 30 日 前まで	1 回	散布	2 回以内			
キャベツ				収穫前日ま で	3 回以内					
ねぎ										
きゅうり										
メロン				収穫 7 日前 まで	2 回以内 (但し、開 花後 1 回)					
小粒種 ぶどう (露地栽培)				収穫 60 日 前まで						
大粒種 ぶどう (露地栽培)										
ぶどう (施設栽培)	開花前まで	2 回以内								
らっきょう	白色疫病	500 倍	-	開花後 (10 月)～4 月 但し収穫 30 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種 後は 3 回以内)			
すいか	疫病	1000 倍	-	収穫 7 日前 まで	2 回以内		2 回以内			
みかん	褐色腐敗病	750 倍	-	収穫 30 日 前まで			5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種後 は 4 回以内)			
トマト	疫病	750 倍	-	収穫前日ま で	2 回以内					



④ 10.0%メタラキシル・55.0%マンゼブ水和剤（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈倍 数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	メタラキシル及びメ タラキシルMを含む 農薬の 総使用回数
わさび だいこん	白さび症	500 倍	200～ 400L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	4 回以内 (種子粉衣は 1 回 以内、は種後は 3 回以内)
いちご	疫病	1000 倍	50mL/株 (200～ 400L/10a)	育苗期	3 回以内		5 回以内 (種子粉衣 は 1 回以内、育苗期 は 3 回以内、定植時 の土壌混和は 1 回 以内)
ブロッコリー	べと病		-	花蕾形成前 まで 但し、 収穫 21 日前 まで			4 回以内 (種子粉衣 は 1 回以内、は種後 は 3 回以内)
パッション フルーツ	疫病		-	収穫 30 日前 まで			3 回以内
あずき	茎疫病	500 倍	100～ 300L/10a	収穫 45 日前 まで	3 回以内		4 回以内 (種子粉衣 は 1 回以内、 は種後は 3 回以内)
だいず	べと病			4 回以内 (種子粉衣及びは 種前の塗沫処理は 合計 1 回以内、は種 後は 3 回以内)			
	茎疫病						

⑤ 8.0%メタラキシル・75.6%塩基性塩化銅水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数	
みかん	褐色腐敗病	750 倍	200～700L/10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内	
ばれいしょ	疫病	400～600 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内		3 回以内	
トマト					収穫前日まで		4 回以内	5 回以内（種子粉衣は 1 回以内、は種後は 4 回以内）
ミニトマト				収穫 14 日前まで	3 回以内		4 回以内	4 回以内（種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
かぼちゃ								
きゅうり								
すいか	褐色腐敗病 果実汚斑 細菌病	800 倍		収穫 7 日前まで	3 回以内		4 回以内（種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内）	
メロン	べと病	400～600 倍		100～300L/10a	収穫 7 日前まで		3 回以内	4 回以内（種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内）
たまねぎ								
ひろしまな	白さび病	600～800 倍			収穫 14 日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで		1 回	2 回以内（種子粉衣は 1 回以内、は種後は 1 回以内）
みつば	べと病	800 倍						
うど	疫病	—			伏込時 但し、収穫 25 日前まで		1 回	根株瞬間浸漬

⑥ 4.0%メタラキシル・30.0%ヒドロキシイソキサゾール液剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (フザリウム菌、 ピシウム菌) ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の発根 及び 活着促進	500～ 1000 倍	は種時 又は 発芽後	1 回	育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約 5L)1 箱当 り希釈液 500mL を 土壌灌注する。	4 回以内 (移植前の土壌混和 は 1 回以内、育苗箱 への灌注は 1 回以 内、本田では 2 回以 内)
		1000 倍	は種時		育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約 5L)1 箱当 り希釈液 1L を土壌 灌注する。	

⑦ 0.5%メタラキシル・4.0%ヒドロキシイソキサゾール粉剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病 (ヒシウム菌)	置床 1m <sup>2</sup> 当り 50g	緑化 始期	1回	置床表土に 均一に混和	4回以内 (移植前の土壌 混和は1回以内、 育苗箱への灌注 は1回以内、本田 では2回以内)
	苗立枯病 (ヒシウム菌) 苗立枯病 (フザリウム菌) 根の生育促進ム レ苗防止	育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約 5L) 1箱当り 6~8g	は種前		育苗箱土壌に 均一に混和	
稲 (湛水直播)	根の生育促進 による 苗立の安定	乾籾重量の 3%			過酸化カルシウ ム剤に添加して 種籾に粉衣する。	3回以内 (種もみ粉衣は1 回以内、本田では 2回以内)
さとうきび	根腐病	5kg/10a	植付時		植溝土壌混和	1回

⑧ 1.5%メタラキシル・1.5%フルトラニル粉剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
こんにゃく	根腐病	5kg/10a	培土時(但し、収穫 30日前まで)	1回	株元散布 (散布後土寄せ)	1回
		5~ 10kg/10a	植付時		植溝土壌混和	
		20kg/10a			全面土壌混和	
	白絹病	5kg/10a	培土時(但し、収穫 30日前まで)		株元散布 (散布後土寄せ)	
		20kg/10a	植付時		全面土壌混和	

⑨ 1.0%メタラキシルM粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
ピーマン	疫病	3 g/株	収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)
みょうが(花穂)	根茎腐敗病	20kg/10a	収穫30日前まで	2回以内	土壌表面散布	2回以内
みょうが(茎葉)			みょうが(花穂)の収穫30日前まで、但し、花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで			

⑩ 3.3%メタラキシルM・32.0%TPN 水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数	
ぶどう	べと病	1500倍	200～700L/10a	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内	
ばれいしょ	疫病	500～1000倍	100～400L/10a	収穫7日前まで	3回以内		3回以内	
ミニトマト		800～1000倍			2回以内		4回以内	4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)
トマト		葉かび病			800倍		4回以内	5回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内)
きゅうり	うどんこ病	800～1000倍		収穫前日まで	3回以内		4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)	
	褐斑病							
メロン	べと病	800倍		収穫3日前まで	3回以内		4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)	
	うどんこ病							
すいか	つる枯病	800倍		収穫7日前まで	3回以内		4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)	
	炭疽病							
	褐色腐敗病							

⑩ 3.3%メタラキシルM・32%TPN 水和剤(つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
たまねぎ	べと病	800～1000倍	100～ 400L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)
	灰色かび病	800倍					
ねぎ	べと病	800～1000倍		収穫14日前まで	2回以内		
キャベツ							
はくさい	ピシウム腐敗病	1000倍		収穫7日前まで	2回以内		
	白さび病						
	べと病	800～1000倍					
レタス	べと病	800倍		収穫14日前まで	3回以内		
らっきょう	白色疫病	1000倍		収穫14日前まで	3回以内		
ブロッコリー	べと病			出蕾前 但し、収穫21日前まで	2回以内		
アスパラガス	疫病		収穫7日前まで	3回以内			

⑪ 3.8%メタラキシルM・64.0%マンゼブ水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	疫病	500～1000倍	100～ 300L/10a	収穫30日前まで	1回	散布	3回以内
トマト		1000倍		収穫前日まで	2回以内		5回以内(種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内)
キャベツ	べと病			収穫30日前まで	3回以内		4回以内(種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)
ねぎ							
きゅうり							
メロン							
小粒種ぶどう(露地栽培)		200～700L/10a	収穫60日前まで	2回以内	2回以内		

⑪ 3.8%メタラキシル・64.0%マンゼブM水和剤(つづき)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
大粒種ぶどう (露地栽培)	べと病	1000倍	200～ 700L/10a	収穫60日前まで	2回以内(但し、開花後1回)	散布	2回以内
ぶどう (施設栽培)				開花前まで	2回以内		
みかん	褐色腐敗病			収穫30日前まで	1回		
はくさい	べと病		2回以内				
	ピシウム腐敗病						
かぼちゃ	疫病		収穫7日前まで		3回以内		
たまねぎ	べと病						
あずき	茎疫病	500倍	100～ 300L/10a	収穫30日前まで	4回以内(種子粉衣及びは種前の塗沫処理は合計1回以内、は種後は3回以内)		
だいず	べと病			収穫45日前まで			
				すいか			褐色腐敗病
わさびだいこん	白さび病	1000倍	200～ 400L/10a	収穫14日前まで	4回以内(種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)		
いちご	疫病			50mL/株 (200～ 400L/10a)		育苗期	5回以内(種子粉衣は1回以内、育苗期は3回以内、定植時の土壌混和は1回以内)

⑫ 1.0%メタラキシルM・2.0%アゾキシストロビン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタラキシル及びメタラキシルMを含む農薬の総使用回数
みょうが (茎葉)	根茎腐敗病	18kg/10a	みょうが(花穂)の収穫30日前まで、但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで	1回	土壌表面散布	2回以内
みょうが (花穂)			収穫30日前まで	3回以内	定植前作条土壌混和又は生育期土壌表面散布	3回以内
しょうが						
ホップ	べと病	20g/株	株ごしらえ時～選芽期	1回	株元散布	1回
ピーマン	疫病	3g/株	収穫前日まで			4回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)
とうがらし類						
こまつな	白さび病	9kg/10a	は種前 但し、収穫21日前まで	1回	全面土壌混和	2回以内 (種子粉衣は1回以内、土壌混和は1回以内)
タアサイ			定植時			
くわい	茎腐病	3kg/10a	収穫21日前まで	2回以内	湛水散布	2回以内
せり	葉腐病			1回	全面土壌混和	2回以内 (種子粉衣は1回以内、は種後は1回以内)
だいこん	白さび病					は種時
べにばな いんげん	茎根腐病	1g/株	定植時	1回	株元散布	1回
こんにゃく	根腐病	9kg/10a	植付時		植溝土壌混和	
	白絹病		培土期		株元散布	

⑬ 22.6%チアメトキサム・1.1%フルジオキサニル・1.7%メタラキシルM水和剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用回 数	使用 方法	メタラキシル及びメタラ キシルMを含む農薬の総 使用回数
だいず	苗立枯病 (ピシウム菌)	原液	乾燥 種子 1kg 当り 8mL	は種前	1回	塗沫 処理	4回以内 (種子粉衣及びは種前の 塗沫処理は合計1回以内、 は種後は3回以内)
	紫斑病						
えだまめ	アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 フタスジヒメハムシ 茎疫病 リゾクトニア 根腐病						1回
	立枯病 (リゾクトニア菌)						
	てんさい						立枯病 (ピシウム菌)
							テンサイトビハムシ
	あずき						アブラムシ類

⑭ 31.0%メタラキシルM液剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用回 数	使用 方法	メタラキシル及 びメタラキシルM を含む農薬の総 使用回数
野菜類	ピシウム菌に よる病害 (苗立枯病等)	原液	乾燥種子 1kg 当り 1.78mL	は種前	1回	種子処理機 による塗沫 処理	1回



(2) 海外での使用方法

① 49.0%メタラキシルM乳剤及び45.3%メタラキシルM液剤 (米国)

作物名	1回当りの 使用量	メタラキシルMの総使用量	使用 時期	使用 間隔	使用方法
葉菜類* (あぶらな科を 除く)	1.0-2.0 pts./A	0.50-1.0 lb. ai/A (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は1.0 lb. ai/A、 茎葉散布は0.4 lb. ai/Aを 超えないこと)	収穫 7日 前ま で	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状)  土壌散布 (全面又は帯状)
根菜・塊茎類**	1.0-2.0 pts./A	0.50-1.0 lb. ai/A	—	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状)  土壌散布 (全面又は帯状)
高麗人参	0.75 pt./A	0.375 lb. ai/A	—	—	土壌灌注
にんじん	0.5-1.3 pt./A	0.25-0.65 lb. ai/A (メタラキシルMを含有する製剤として 合計1.4 lb. ai/A、 土壌処理は0.65 lb. ai/A、 茎葉散布は0.75 lb. ai/Aを 超えないこと)	—	—	植付前土壌混和 (全面又は帯状)  土壌散布 (全面又は帯状)
	0.25-1.0 pt./A	0.125-0.5 lb. ai/A (植付後処理は合計0.75 lb. ai/A かつ1回0.5 lb. ai/Aを 超えないこと、本剤を1作期で1.4 lb. ai/A以上使用しないこと、 メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は0.65 lb. ai/A、 茎葉散布は0.75 lb. ai/A を超えないこと)	収穫 7日 前ま で	14-21 日	植付後処理  直接散布 (全面又は帯状)
レタス (結球及び非結 球)	0.125- 0.25 pt./A	0.063-0.125 lb. ai/A (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は1.0 lb. ai/A、 茎葉散布は0.4 lb. ai/A を超えないこと)	収穫 7日 前ま で	—	茎葉散布 (地上又は空中)
ばれいしょ	0.42 fl. oz./1000 row ft.	0.013 lb. ai/1000 row ft. (メタラキシルMを含有する製剤として 土壌処理は0.34 lb. ai/A、 茎葉散布は0.40 lb. ai/Aを 超えないこと)	—	—	畝内散布
てんさい	1.0-2.0 pt./A	0.50-1.0 lb. ai/A	—	—	植付前土壌混和 (全面及び帯状) 土壌散布 (全面及び帯状)

\* : 「しゅんぎく」、「その他のきく科野菜」及び「セロリ」を含む

\*\* : 「やまいも」及び「にんじん」を含む

② (米国)

作物名	1回当り 使用量	本剤の 使用回数	栽培期間中 の総使用量	使用時期	使用方法
小豆類 (インゲン、 あずき、レンズ)、 エンドウ、その他の豆類 (リマ、スナップ他)	0.51lb. a. i. /A	1回	0.51lb. ai/A	栽培前または 播種時	全面土壌散布 又は带状土壌散 布
ばれいしょ	0.188lb. a. i. /A	2回	0.588lb. ai/A	種いも播種時	畝間処理
	0.40lb. a. i. /A			塊茎形成初期	茎葉処理
かんしょ やまいも	1.01lb. a. i. /A	1回	1.01lb. ai/A	栽培前または 種いも播種時	全面土壌散布 又は带状土壌散 布
だいこん	1.01lb. a. i. /A	1回	1.01lb. ai/A	栽培前または 播種時	全面土壌散布 又は带状土壌散 布
トマト	1.01lb. a. i. /A	1回	2.01lb. ai/A	定植時	全面土壌散布 又は带状土壌散 布
	0.51lb. a. i. /A	2回		生育期 (定植4~6週 間後、収穫4 週間前まで)	土壌灌注
未成熟大豆	0.51lb. a. i. /A	1回	0.51lb. ai/A	栽培前または 播種時	全面土壌散布 又は带状土壌散 布
高麗人参	15lb. a. i. /A	4回	6.01lb. ai/A	収穫9日前まで	土壌表面処理 (粒剤)
核果類 (アンズ、おうとう、ネク タリン、もも、うめ、 すもも、プルーン)	2.01lb. a. i. /A	3回	6.01lb. ai/A	苗木は定植 後2週間以 降、成木は春 期生育前	全面土壌散布 又は带状土壌散 布
いちご	0.51lb. a. i. /A	3回	1.51lb. ai/A	収穫当日まで	带状土壌散布 又は土壌灌注
ブルーベリー	1.81lb. a. i. /A	2回	3.61lb. ai/A	収穫当日まで	带状土壌散布 又は全面土壌散 布
ナッツ類 (アーモンド、クルミ)	2.01lb. a. i. /A	3回	6.01lb. ai/A	苗木は定植 後2週間以 降、成木は春 期生育前	株元に全面土壌 散布又は带状土 壌散布

③ (EU)

作物名	1 回当り 使用量	本 剤 の 使用 回数	栽培期間中 の総使用量	使用時期	使用方法
にんにく(たまねぎ の使用方法を適用)	0.15kg a. i. /ha	3 回	0.45kg ai/ha	発病初期 PHI 14~28 日	茎葉散布
レモン、オレンジ、 マンダリン (Citrus fruit)	1 g a. i. /m <sup>2</sup>	2 回	2 g ai/m <sup>2</sup>	生育始期 PHI 15~30 日	土壌処理 (株元散布)
	1 g a. i. /樹	2 回	2 g ai/樹	生育始期 PHI 15~30 日	土壌処理 (株元点滴かん水)
	3.5 g a. i. /樹	2 回	7 g ai/樹	PHI 30 日	茎葉散布
	0.35 g a. i. /樹	2 回	0.7 g ai/樹	PHI 15 日	茎葉散布
りんご、なし (pome fruit)	1 g a. i. /m <sup>2</sup>	2 回	2 g ai/m <sup>2</sup>	秋期又は 3月の生育初期 PHI 15~28 日	土壌処理 (株元散布)
	1 g a. i. /樹	2 回	2 g ai/樹	秋期又は3月 PHI 15~28 日	土壌処理 (株元点滴かん水)

ai:active ingredient (有効成分)

### 3. 作物残留試験

#### (1) 分析の概要

##### ①分析対象の化合物

メタラキシル及びメタラキシルM

##### ②分析法の概要

試料からアセトンで抽出し、多孔性けいそう土カラムを用いて精製した後、グラフアイトカーボンカラム及びフロリジルカラムで精製し、ガスクロマトグラフ (NPD) で定量する。D-鏡像異性体のメタラキシルMとラセミ体のメタラキシルは、同じ分析法で実施されており、クロマトグラフ上のピークは同一で、メタラキシルMとメタラキシルは 区別されない。

定量限界：メタラキシル及びメタラキシルM 0.005~0.1ppm

#### (2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-1、海外で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-2 を参照。

#### 4. 魚介類への推定残留量

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本剤の水産動植物被害予測濃度<sup>注1)</sup>及び生物濃縮係数（BCF：Bioconcentration Factor）から、以下のとおり魚介類中の推定残留量を算出した。

##### (1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が水田及び水田以外のいずれの場合においても使用されることから、水田 PECtier2<sup>注2)</sup>及び非水田 PECtier1<sup>注3)</sup>を算出したところ、水田 PECtier2 は 2.58 ppb、非水田 PECtier1 は 0.0158 ppb となったことから、水田 PECtier2 の 2.58 ppb を採用した。

##### (2) 生物濃縮係数

本剤はオクタノール／水分配係数 ( $\log_{10}Pow$ ) が 1.75 であり、魚類濃縮性試験が実施されていないことから、BCF については実測値が得られていない。このため、 $\log_{10}Pow$  から、相関式 ( $\log_{10}BCF = 0.80 \times \log_{10}Pow - 0.52$ ) を用いて 7.59 と算出された。

##### (3) 推定残留量

(1) 及び (2) の結果から、メタラキシルの水産動植物被害予測濃度：2.58 ppb、BCF：7.59 とし、下記のとおり推定残留量が算出された。

$$\text{推定残留量} = 2.58 \text{ ppb} \times (7.59 \times 5) = 97.9 \text{ ppb} \approx 0.098 \text{ ppm}$$

注1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出したもの。

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

(参考)：平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

5. 畜産物への推定残留量

(1) 動物飼養試験(家畜残留試験)

①泌乳山羊における代謝試験

フェニル環を <sup>14</sup>C 標識したメタラキシルを、飼料中濃度として 76.9 ppm に相当する濃度で 4 日間にわたり泌乳山羊に強制経口投与した代謝試験において、各組織中に認められた主要代謝物の濃度は、次表のとおりである。

表 1. メタラキシル及び主要代謝物の各組織中の濃度 (ppm)

分析部位		筋肉 (肢)	筋肉 (腰)	脂肪	肝臓	腎臓	乳汁
<sup>14</sup> C 濃度		0.074	0.065	0.25	1.37	1.06	0.066
メタラキシル		—	—	—	—	—	—
代謝物	D	0.014	0.011	0.065	0.185	0.335	0.004
	E	0.009	0.007	0.034	0.110	0.363	0.003
	B	0.004	0.011*	0.007	0.070*	0.029	0.003
	H	0.006	0.004	0.029	0.025	0.036	0.003**
	C1	0.008	0.006	0.007	0.022	0.007	<0.001
	L	0.006	*	0.014	*	0.007	<0.001

— : 検出せず

(JMPR 提出資料 ABR-90078 より)

\* 印欄の代謝物 B には、代謝物 L が含まれる。

\*\* JMPR では、乳汁中に代謝物 H の脂肪酸抱合体が 0.058ppm 含まれるとしている。

(代謝物の略号)

代謝物 B (Cas 96258-85-4)

2-[(3-ヒドロキシ-2,6-ジメチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物 C1 (Cas 75596-99-5)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物 D (Cas 104390-55-8)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物 E (Cas 85933-49-9)

2-[(2-ヒドロキシメチル-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物 H (Cas 66637-79-4)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物 L (Cas 29183-14-0)

N-(2,6-ジメチルフェニル)-2-ヒドロキシアセトアミド

## ②乳牛における残留試験

乳牛に対して、飼料中濃度として、75 ppm に相当する濃度のメタラキシルを 28 日間にわたって混餌投与し、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び乳汁に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-ジメチルアニリン(2,6-DMA) に分解しメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている(定量限界:0.01~0.1 ppm)。

表 2. 乳牛における残留濃度(ppm)

分析部位	混餌投与濃度 ppm (1頭当り のメタラキシル摂取 量 mg/day)	投与期間						
		1日	13日	14日	20日	21日	27日	28日
腰肉	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	0.09	—	<0.05	—	0.06
腿肉	0 (0)	—	—	0.06**	—	—	—	0.07**
	75 (1500)	—	—	0.15	—	0.07	—	0.08
脂肪 (大網)	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	<0.05	—	<0.05	—	<0.05
脂肪 (腎周囲)	0 (0)	—	—	<0.05	—	—	—	<0.05
	75 (1500)	—	—	<0.05	—	<0.05	—	<0.05
肝臓	0 (0)	—	—	<0.10	—	—	—	<0.10
	75 (1500)	—	—	0.96	—	0.14	—	0.12
腎臓	0 (0)	—	—	<0.10	—	—	—	<0.10
	75 (1500)	—	—	5.4	—	0.12	—	0.11
乳汁	0 (0)	<0.01	—	<0.01	—	—	<0.01	—
	75 (1500)	0.02	—	0.02	0.02	—	0.02	—

※検出理由は不明であるが、分析試料の汚染と推察されている。(JMPR 提出資料 ABR-82052 より)

筋肉で 0.06~0.15 ppm、肝臓で 0.12~0.96 ppm、腎臓で 0.11~5.4 ppm、乳汁で 0.02 ppm の検出が認められ、脂肪での検出は認められていない。

カナダでは、給餌量と最大理論的飼料由来負荷(MTDB)に基づいて、乳牛等の腎臓の残留基準を 0.85ppm(代謝物を含む)と設定している。米国では、同様の試験成績と栄養バランスを考慮した飼料(RBD; Reasonably Balanced Diet)に、未同定代謝物を考慮した補正を加えて、飼料負荷(Dietary Burden)を乳牛 44ppm、肉牛 23ppm 及び豚 10ppm と算出し、肝臓及び腎臓の残留基準を 0.4 ppm(代謝物を含む)と設定している(EPA Memorandum 2007年4月19日 DP No. 337966)。また、残留飼料を経由した乳汁中における残留については 0.02ppm を超える可能性がないとして、残留基準値を 0.02ppm に設定している。

なお、農林水産省から稲わら及び粗発酵飼料の指導基準値案として、それぞれ 0.5ppm 及び 0.2ppm が示されており、これら値を用いて、メタラキシル及び 2,6-ジメチルアニリンに変換される代謝物の肉類、乳類及び卵類における推定残留値を試算したところ、いずれも 0.01ppm 未満と推定されている。

注)最大理論的飼料由来負荷(Maximum Theoretical Dietary Burden ;MTDB):飼料として用いられるすべての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露される最大量を示す。飼料中残留濃度として表示される。

### ③産卵鶏における代謝試験

フェニル環を <sup>14</sup>C 標識したメタラキシルを、飼料中濃度として 100 ppm に相当する濃度で 4 日間にわたり産卵鶏に強制経口投与した代謝試験において、各組織中に認められた主要代謝物の濃度は、次表のとおりである。

表 3. メタラキシル及び主要代謝物の各組織中の濃度 (ppm)

分析部位	胸肉	腿肉	脂肪	肝臓	腎臓	心臓	砂囊	皮膚 +脂肪	卵黄	卵白	
<sup>14</sup> C濃度	0.554	0.674	0.254	1.391	1.472	0.568	1.416	0.318	0.206	0.179	
メタラキシル	0.002	—		0.018	—	—	0.264	—	0.016	0.009	
代謝物*	J	0.099	0.146	0.001	0.167	0.148	0.062	0.266	0.028	—	0.044
	D	—	—		0.237	0.075	0.012	—	—	—	—
	E	0.011	0.004		0.013	0.010	0.007	0.006	—	0.046	0.008
	H	—	—		0.009	0.019	—	0.030	—	—	—
	I	—	—		—	0.011	—	0.014	—	—	—

— : 検出せず

(JMPR 提出資料 ABR-90077 より)

\* JMPR では、代謝物 P (P1 と異性体 P2 の和) が、腿肉に 0.312ppm、脂肪に 0.018 ppm、卵黄に 0.072ppm、卵白に 0.056ppm みられ、主要代謝物としている。

(代謝物の略号)

代謝物 D (Cas 104390-55-8)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物 E (Cas 85933-49-9)

2-[(2-ヒドロキシメチル-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物 H (Cas 66637-79-4)

2-[(2,6-ジメチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物 I

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸メチルエステル

代謝物 J (Cas 104390-56-9)

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-メトキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物 P1

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸

代謝物 P2

2-[(2-カルボキシ-6-メチルフェニル)-(2-ヒドロキシアセチル)アミノ]プロピオン酸 (P1 の異性体)

④産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対して、飼料中濃度として、1.5, 5 ppm に相当するメタラキシルを 28 日間にわたって混餌投与し、筋肉、脂肪、肝臓及び鶏卵に含まれるメタラキシル及び代謝物を、2,6-ジメチルアニリンに分解しメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている（定量限界：0.05～0.1 ppm）。

表 4. 産卵鶏における残留濃度 (ppm)

分析部位	メタラキシルの混餌投与濃度 (ppm)	投与期間			
		7 日	14 日	21 日	28 日
胸肉+腿肉	0	<0.05	—	<0.05	—
	1.5	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	5.0	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
脂肪	0	<0.05	—	<0.05	—
	1.5	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	5.0	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
肝臓	0	<0.1	—	<0.1	—
	1.5	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
	5.0	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
鶏卵	0	<0.05	—	<0.05	—
	1.5	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
	5.0	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05

(メーカー資料 Project Number 409006 より)

各組織中のメタラキシルの残留は、いずれの混餌投与濃度、いずれの時期においても 定量限界未満とされている

③の産卵鶏の代謝試験において、フェニル環を <sup>14</sup>C 標識したメタラキシルを、飼料中濃度として 100 ppm に相当する濃度で、4 日間にわたって強制経口投与し、筋肉、脂肪、肝臓、腎臓及び鶏卵に含まれる放射能をメタラキシル当量に換算して残留量が測定されている。

表 5. 産卵鶏における残留放射能濃度 (ppm)

組織名	放射能濃度 (メタラキシル相当 ppm)
胸肉	0.554
腿肉	0.674
脂肪	0.254
肝臓	1.391
腎臓	1.472
砂囊	1.416
心臓	0.568
皮膚及び付着脂肪	0.318



分析部位	投与1日	投与2日	投与3日	投与4日
卵黄	0.014	0.066	0.138	0.206
卵白	0.127	0.166	0.160	0.179

③の産卵鶏の代謝試験成績から一部を再掲（JMPR 提出資料 ABR-90077 より）

筋肉で 0.554～0.674 ppm、脂肪で 0.254 ppm、肝臓で 1.391 ppm、腎臓で 1.472 ppm、卵黄、卵白でそれぞれ 0.014～0.206 ppm、0.127～0.179 ppm の検出が認められているが、米国及びカナダで飼料作物を含む農作物に設定されている残留基準の最大値は、20 ppm となっている。

カナダでは、給餌量と最大理論的飼料由来負荷(MTDB)に基づいて、産卵鶏の腎臓の残留基準を 0.7ppm（代謝物を含む）と設定している。米国では、同様の試験成績と栄養バランスを考慮した飼料（RBD；Reasonably Balanced Diet）に、未同定代謝物を考慮した補正を加えて、飼料負荷(Dietary Burden)を 10ppm と算出し、肝臓及び腎臓の残留基準を 0.4 ppm（代謝物を含む）と設定している（EPA Memorandum 2007 年 4 月 19 日 DP No. 337966）。また、両国とも飼料を経由した鶏卵中における残留については 0.05ppm を超える可能性がないとして、残留基準値を 0.05ppm と設定している。

注)最大理論的飼料由来負荷(Maximum Theoretical Dietary Burden；MTDB):飼料として用いられるすべての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量を示す。飼料中残留濃度として表示される。

(参考:Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

## 6. ADI の評価

食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたメタラキシル及びメタラキシルMに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量：2.2mg/kg 体重/day（発がん性は認められなかった。）

（動物種）           ラット

（投与方法）       混餌（メタラキシル）

（試験の種類）   慢性毒性/発がん性併合試験

（期間）           2 年間

安全係数：100

ADI：0.022 mg/kg 体重/day

## 7. 諸外国における状況

2002 年に JMPR における毒性評価が行われ、ADI が設定されている。国際基準はメタラキシルについて、らっかせい、キャベツ等に設定されている。

米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国において小豆類、ばれいしょ等に、カナダにおいて小麦、大豆等に、EUにおいてたまねぎ、にんにく等に、オーストラリアにおいて仁果果実類、パイナッ

プル等に、ニュージーランドにおいてベリー類、ぶどう等に基準が設定されている。いずれの国及び地域においても、現段階では、メタラキシルの基準値がメタラキシルMにも適用されるものとなっている。

## 8. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

#### ① 農産物及び魚介類

メタラキシル及びメタラキシルMとする。

#### ② 畜産物

メタラキシル及びメタラキシルM並びに代謝物Dをメタラキシル及びメタラキシルMに換算したものの和

植物体内運命試験において、水稻、レタス、水稻茎葉、ぶどう果実、ばれいしょ塊茎から、代謝物E (CAS 85933-49-9) が、遊離体と糖抱合体の合計で、総残留放射能 (TRR) の10~20%検出されているが、動物体内運命試験の代謝物としても認められ、親化合物よりも毒性が低いと示唆されることから、農産物の規制対象には代謝物を含めないこととした。

一方、米国及びカナダの基準値を参照した農作物については、代謝物を含む残留値として運用されていることから、親化合物の残留値とするため、植物体内運命試験成績から、親化合物の推定最大割合と推測される0.7を乗じ、一律基準を超える値について、下2桁目を切り上げてメタラキシル及びメタラキシルM本体相当の基準値を設定した。

畜産物については、カナダ及び米国において基準が設定されており、分析対象に代謝物が含まれている。泌乳山羊の組織中の主要残留物は、筋肉、肝臓及び脂肪で代謝物D (CAS 104390-55-8)、腎臓で代謝物D (CAS 104390-55-8) 及び代謝物E (CAS 85933-49-9)、乳で代謝物H (CAS 66637-79-4) の脂肪酸抱合体とされ、親化合物の検出は認められていない。産卵鶏においては、肝臓、腎臓及び卵白で代謝物J (CAS 104390-56-9) 及びDが主要代謝物とされ、親化合物以上の検出もみられている。毒性については、毒性試験が行われていない代謝物P1、P2及びHを除くいずれの代謝物(遊離体)も、親化合物を上回る毒性は認められていない。同試験成績の評価を行ったJMPRでは、メタラキシルの残留量について、検出されないか又は一過性に検出されるものとして、現時点では、畜産物への基準設定は行われていない。

親化合物の検出が認められた組織等は鶏の一部に限定されており、親化合物は残留の指標にならないことも考えられることから、2004年のJMPRの評価結果と、カナダにおいて規制対象として代謝物を含めた基準設定が行われていることを考慮し、また、他の農薬の残留との量り込みの観点から分析対象を限定することが妥当と考えて、畜産物の規制対象をメタラキシル及びメタラキシルM並びに代謝物Dとした。米国の基準値は、カナダでの親化合物及び2,6-ジメチルアニリンに変換されると推測される代謝物のほか、2-ヒドロキシメチル-6-メチルアニリン (HMMA) 部分を有する代謝物や未同定代謝物を含め、すべてを2,6-ジメチルアニリン関連物質と仮定し、残留値を同

定率で補正して、代謝物を含めたメタラキシル相当量の基準値として運用している。カナダの基準値は 米国で実施された同試験成績を基に評価を行ったものとされている。なお、基準設定に当たり、カナダの基準値を参照する際、動物体内運命試験成績から、親化合物と代謝物Dの推定最大割合と推測される 0.2~0.3 の係数（家畜について0.3、家きんについて0.2）を乗じ、一律基準以上の値について、端数を切り上げて、メタラキシル及びメタラキシルM相当の基準値（代謝物Dを含む）として設定した。

なお、食品安全委員会による食品健康影響評価においても、農産物及び魚介類中の暴露評価対象物質としてメタラキシル及びメタラキシルM（親化合物のみ）を設定している。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限の量までメタラキシル及びメタラキシルMが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たりに摂取する農薬の量（理論最大1日摂取許容量（TMDI））のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

	TMDI / ADI (%) <sup>注)</sup>
国民平均	34.4
幼小児 (1~6歳)	68.3
妊婦	29.5
高齢者 (65歳以上)	32.2

注) TMDI 試算は、基準値案×各食品の平均摂取量の総和として計算している。

## メタラキシル及びメタラキシルMの国内作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup> 【メタラキシル 及びメタラキシルM】	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
水稲 (玄米)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬 +育苗箱処理 80g/箱	2回	134日	圃場A:<0.01(#) <sup>注2)</sup>
					142日	圃場B:<0.01(#)
水稲 (玄米)	2	メタラキシル 25%水和剤+ メタラキシル 2%粒剤+ メタラキシル 2%粒剤	500ppm種子浸漬 +育苗箱処理 +湛水散布(2回) 80g/箱+ 12.5kg/10a(2回)	4回	93日	圃場A:<0.01
					70日	圃場B: 0.02
水稲 (玄米)	2	メタラキシル 0.5%粉剤+ メタラキシル 4%液剤+ メタラキシル 2%粒剤	育苗箱処理+ 500倍育苗箱処理(2回)+ 湛水散布(2回) 8g/箱+ 500mL/箱(2回)+ 60g/10a(2回)	5回	45日	圃場A: 0.06(#)
					45日	圃場B: 0.028(#)
だいず (乾燥子実)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	143日	圃場A:<0.005
					130日	圃場B:<0.005
だいず (乾燥子実)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 200L, 100L/10a	3回	21日	圃場A:<0.005
					21日	圃場B:<0.005
だいず (乾燥子実)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤	500倍散布 250, 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01(#) 圃場B:<0.01(#)
だいず (乾燥子実)	2	メタラキシルM 1.7%水和剤 (フロアブル)	原液 8mL/kg種子	1回	125日	圃場A:<0.01
					127日	圃場B:<0.01
あずき (乾燥子実)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 120, 200L/10a	3回	21日	圃場A: 0.014
					21日	圃場B: 0.028
あずき (乾燥子実)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤	500倍散布 200, 120L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A: 0.02(#) 圃場B:<0.01(#)
あずき (乾燥子実)	2	メタラキシルM 1.7%水和剤 (フロアブル)	原液 8mL/種子1kg	1回	125日	圃場A:<0.01
					112日	圃場B:<0.01
ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 500L/10a	4回	6日	圃場A:<0.05(#)
					14日	圃場B: 0.06(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 500L/10a	6回	7日	圃場A: 0.11(#)
					7日	圃場B: 0.16(#)
ばれいしょ (塊茎)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤 (フロアブル)	413倍散布 (2.42g/L) 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01(#)
					7, 14, 21日	圃場B: 0.01(#)
こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 1.5%粉剤	作条処理 10, 20kg/10a	1回	139日	圃場A: 0.01
					168日	圃場B: 0.02
こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 1.5%粉剤	全面土壌混和 20kg/10a	1回	139日	圃場A: 0.01
					168日	圃場B: 0.06
こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	植付時全面土壌混和 15kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
					158日	圃場B:<0.008
こんにゃくいも (球茎)	3	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理 5kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
					158日	圃場B:<0.008
こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理 10kg/10a	1回	149日	圃場A:<0.008
					158日	圃場B:<0.008
こんにゃくいも (球茎)	3	メタラキシル 2%粒剤	植付時植溝処理+ 培土時株元散布 5kg/10a+5kg/10a	2回	114日	圃場A:<0.008(#)
					133日	圃場B:<0.008(#)
					103日	圃場C:<0.008(#)
こんにゃくいも (球茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	培土時土壌表面散布 5kg/10a	1回	151, 158, 165日	圃場A:<0.05
					99, 106, 113日	圃場B:<0.05

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup> 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
さとうきび (茎部)	2	メタラキシル 0.5%粉剤	植溝土壌混和 5kg/10a	1回	243日	圃場A:<0.01
					243日	圃場B:<0.01
だいこん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	47日	圃場A:<0.04
					64日	圃場B:<0.04
だいこん (葉部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	47日	圃場A:<0.04
					64日	圃場B:<0.04
だいこん (根部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時作条土壌混和处理 9kg/10a	1回	53日	圃場A: 0.03
					50日	圃場B: 0.05
だいこん (葉部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時作条土壌混和处理 9kg/10a	1回	53日	圃場A: 0.04
					50日	圃場B: 0.05
だいこん (つまみ菜)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	9kg/10a	1回	14日	圃場A: 0.08
						圃場B: 0.78
だいこん (間引き菜)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	9kg/10a	1回	20日	圃場A: 0.02
						圃場B: 0.14
かぶ (根部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	91日	圃場A:<0.1
					85日	圃場B:<0.1
かぶ (葉部)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	91日	圃場A:<0.1
					85日	圃場B:<0.1
わさびだいこん (西洋ワサビ) (根部)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 400, 200L/10a	3回	14日	圃場A:<0.02
					14日	圃場B: 0.03
わさびだいこん (根部)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤	1000倍散布 150, 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01(#)
						圃場B: 0.01(#)
はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A: 0.20(#)
					7, 14, 21日	圃場B: 0.148(#)
はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A: 0.071(#) ※ <sup>注3)</sup>
					7, 14, 21日	圃場B: 0.21(#)
はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 200, 500L/10a	6回	7, 14, 21日	圃場A: 0.14(#)
					7, 14, 21日	圃場B: 0.159(#)
はくさい (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	粉衣(1回)+800倍散布(3回) 種子重量の0.5%+200L/10a	4回	7日	圃場A: 0.020
					7日	圃場B: 0.088
はくさい (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 220, 250~300L/10a	3回	7, 14日	圃場A: 0.02(#)
					7, 14日	圃場B: 0.03(#)
キャベツ (葉球)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	83日	圃場A:<0.01
					115日	圃場B:<0.01
キャベツ (葉球)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200, 200~250L/10a	3回	30日	圃場A: 0.02
					30日	圃場B: 0.06
キャベツ (葉球)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300L/10a	3回	14, 21日	圃場A: 0.04(#)
						圃場B: 0.12(#)
こまつな (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種前全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	21日	圃場A: 0.20
					21日	圃場B: 0.44
みずな (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和处理 10kg/10a	1回	21日	圃場A: 1.02
					21日	圃場B: 0.40
チンゲンサイ (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和处理 9kg/10a	1回	25日	圃場A: 0.52
					25日	圃場B: 0.16
ブロッコリー (花蕾)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300, 100~280L/10a	3回	21日	圃場A:<0.1
					21日	圃場B:<0.01
ブロッコリー (花蕾)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	800倍散布 300, 250L/10a	2回	21, 28日	圃場A:<0.1(#)
						圃場B:<0.1(#)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup> 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ひろしまな (その他のアブラナ科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	600倍散布 150L/10a	1回	7日	圃場A: 0.26
					7日	圃場B: 0.25
タアサイ (その他のアブラナ科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	全面土壌混和处理 9kg/10a	1回	28日	圃場A: 0.26 (#) ※
					28日	圃場B: <0.05 (#)
たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 100, 200L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A: <0.01
					7, 14, 21日	圃場B: 0.028 ※
たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤	湿粉衣 種子重量の0.5%	1回	166日	圃場A: <0.01
					245日	圃場B: <0.01
たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 25%水和剤+ 8%水和剤	湿粉衣+400倍散布 (3回) 種子重量の0.5%+ 100, 150L/10a	4回	7, 14日	圃場A: <0.01
					7, 14日	圃場B: <0.01
たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシル 10%水和剤	8倍空中散布 1.5~1.8L/10a	3回	7日	圃場A: <0.01
					7日	圃場B: <0.01
たまねぎ (鱗茎)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300, 200L/10a	3回	7日	圃場A: <0.01 (#)
					7日	圃場B: <0.01 (#)
ねぎ (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300, 200L/10a	3回	14日	圃場A: 0.02 (#)
					14日	圃場B: 0.03 (#)
根深ねぎ (ねぎ) (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A: <0.005
					14, 21, 30日	圃場B: <0.005
葉ねぎ (ねぎ) (茎葉)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 150L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A: <0.01
					14, 21, 31日	圃場B: <0.01
らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150L/10a	4回	21日	圃場A: <0.05 (#)
らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150L/10a	3回	186日	圃場A: <0.05
らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	750倍散布 150L/10a	3回	186日	圃場A: <0.05
らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	1	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 300g/10a	4回	30日	圃場A: 0.17 (#) ※
らっきょう (その他のゆり科野菜) (鱗茎)	2	メタラキシル 10%水和剤	500倍散布 150, 250L/10a	3回	30日	圃場A: <0.1
					30日	圃場B: <0.1
らっきょう (鱗茎)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	500倍散布 300, 208L/10a	3回	14, 21日	圃場A: <0.01 (#) 圃場B: <0.01 (#)
にんじん (根部)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	107日	圃場A: <0.01
					120日	圃場B: <0.01
パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 10kg/10a	3回	22, 32, 41日	圃場A: 0.22
					22, 32, 41日	圃場B: 0.46
パセリ (展開葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 20kg/10a	3回	28日	圃場A: 0.40
					22日	圃場B: 0.56
みつば (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍散布 150, 100L/10a	1回	14日	圃場A: 0.74
					14日	圃場B: <0.05
せり (その他のせり科野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	湛水土壌全面散布 6kg/10a	1回	22日	圃場A: 0.15
					21日	圃場B: 0.34
トマト (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 300, 500L/10a	5回	1日	圃場A: 0.34 (#)
					1日	圃場B: 0.31 (#)
トマト (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1000倍散布 300, 500L/10a	7回	1, 3, 7日	圃場A: 0.30 (#)
					1, 3, 7日	圃場B: 0.30 (#)

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup> 【メタラキシル 及びメタラキシルM】	
		剤型	使用量・使用方法	回数		経過日数
トマト (果実)	2	メタラキシルM 4.2%水和剤	826倍散布 269, 258L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.09 (#)
					1, 3, 7日	圃場B: 0.15 (#)
トマト (果実)	1	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12 (#)
トマト (果実)	1	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.11 (#)
トマト (果実)	1	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.17
トマト (果実)	1	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 190~270, 260L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.30
ミニトマト (果実)	2	メタラキシル 8%水和剤	400倍散布 200, 300L/10a	3回	1日	圃場A: 0.20
					1日	圃場B: 0.66
ミニトマト (果実)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	800倍散布 200, 190L/10a	4回	7, 14日	圃場A: 0.03 (#)
						圃場B: 0.01 (#)
ピーマン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1500倍株元灌注 400mL/株	3回	1, 3, 7, 14, 21日	圃場A: 0.86 (#) ※
					1, 3, 7, 14日	圃場B: 0.44 (#)
ピーマン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1500倍株元灌注 400mL/株	5回	1, 3, 7日	圃場A: 0.40 (#)
					1, 3, 7, 14日	圃場B: 0.38 (#)
ピーマン (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 4g/株	3回	7日	圃場A: 0.38 (#)
					1日	圃場B: 0.05 (#)
ピーマン (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 4g/株	3回	15日	圃場A: 0.31 (#)
					3日	圃場B: 0.60 (#)
ピーマン (果実)	2	メタラキシルM 1%粒剤	株元散布 3g/株	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.11
					1, 3, 7日	圃場B: 0.10
ピーマン (果実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	3g/株	4回	1, 7, 14, 21, 28日	圃場A: <0.1 (#)
						圃場B: <0.1 (#)
なす (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 200, 220L/10a	4回	1日	圃場A: 0.20
					1日	圃場B: 0.50
なす (果実)	2	メタラキシルM 3.3%フロアブル	500倍散布 200, 130~150L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A: 0.08 (#)
					1, 7, 14日	圃場B: 0.18 (#)
ししとう (その他のなす科野菜) (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元散布 3g/株	3回	7日	圃場A: 0.08
					1日	圃場B: 0.05
ししとう (果実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	3g/株	4回	1, 7, 14, 21, 28日	圃場A: <0.1 (#)
						圃場B: <0.1 (#)
甘長とうがらし (果実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	3g/株	4回	1, 3, 7, 14日	圃場A: 0.5 (#)
					1, 3, 7, 14, 21, 28日	圃場B: <0.1 (#)
きゅうり (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200, 500L/10a	5回	1日	圃場A: 0.16 (#)
					1日	圃場B: 0.39 (#)
きゅうり (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200, 500L/10a	7回	1, 3, 7日	圃場A: 0.20 (#)
					1, 3, 7日	圃場B: 0.50 (#)
きゅうり (果実)	2	メタラキシルM 4.2%フロアブル	826倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12 (#)
					1, 3, 7日	圃場B: 0.17 (#)
きゅうり (果実)	1	メタラキシルM 3.3%フロアブル	500倍散布 220L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.18 (#)
きゅうり (果実)	2	メタラキシルM 5%水和剤	1000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.10 (#)
					1, 3, 7日	圃場B: 0.13 (#)
きゅうり (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.12 (#)
					1, 3, 7日	圃場B: 0.24 (#)

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup> 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
かぼちゃ (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 300L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A: 0.01 (#)
					14, 21, 30日	圃場B: 0.01 (#)
かぼちゃ (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300, 293L/10a	3回	7日	圃場A: 0.05
					7日	圃場B: 0.03
すいか (果実)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍散布 250, 300L/10a	3回	7日	圃場A: <0.01
					7日	圃場B: 0.02
すいか (果実)	2	メタラキシルM 4.2%フロアブル	1.21g/L, 826倍散布 200, 300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A: 0.01 (#)
						圃場B: <0.01 (#)
メロン (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	2000倍散布 200L/10a	3回	3日	圃場A: 0.23 (#)
					3日	圃場B: 0.04 (#)
メロン (果実)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤	500倍散布 300, 250L/10a	3回	7, 14日	圃場A: <0.01 (#)
					7, 14日	圃場B: <0.01 (#)
ほうれんそう (茎葉)	2	メタラキシル 25%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	40, 47日	圃場A: <0.01
					31, 38日	圃場B: <0.01
ほうれんそう (茎葉)	2	メタラキシル 2%粒剤	播種時全面土壌混和処理 9kg/10a	1回	59日	圃場A: <0.1
					113日	圃場B: 0.32
オクラ (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 10kg/10a	3回	1日	圃場A: 0.10
					7日	圃場B: 0.34
しょうが (塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	3回	60日	圃場A: 0.30
					46日	圃場B: 0.31
葉しょうが (しょうが) (茎部, 塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	3回	45日	圃場A: 0.23
					30日	圃場B: 0.19
だいず (えだまめ)	2	メタラキシル 15%水和剤	粉衣 種子重量の0.5%	1回	108日	圃場A: <0.005 (#)
					100日	圃場B: <0.005 (#)
えだまめ (さや)	2	メタラキシルM 1.7%水和剤 (フロアブル)	原液 8mL/kg種子	1回	83日	圃場A: <0.01
					69日	圃場B: <0.01
たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	1回	217日	圃場A: <0.01
たらのき (その他の野菜) (芽部)	2	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	2回	186日	圃場A: <0.01
					229日	圃場B: 0.015
たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	2回	229日	圃場A: <0.008
たらのき (その他の野菜) (芽部)	1	メタラキシル 2%粒剤	土壌表面散布 30kg/10a	2回	229日	圃場A: 0.046
うど (その他の野菜) (茎葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	800倍根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場A: 0.26
うど (その他の野菜) (茎葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	800培根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場B: 0.26
うど (その他の野菜) (茎葉)	1	メタラキシル 8%水和剤	400倍根株瞬間浸漬	1回	25日	圃場A: 0.48 (#)
うど (その他の野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	800倍根株瞬間浸漬	1回	20, 30日	圃場A: 0.02
うど (その他の野菜) (茎葉)	2	メタラキシル 8%水和剤	根株瞬間浸漬 800倍	1回	25, 35, 45日	圃場A: 0.2
					25, 35, 45日	圃場B: <0.1
くわい (その他の野菜) (塊茎)	2	メタラキシル 2%粒剤	湛水散布 6kg/10a	2回	21日	圃場A: <0.05
					30日	圃場B: 0.12



農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup> 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
温州みかん (果肉)	2	メタラキシル 8%水和剤	600倍散布 400, 500L/10a	2回	14日	圃場A: 0.04 (#)
					14日	圃場B: 0.02 (#)
温州みかん (果皮 (その他のスパイス))	2	メタラキシル 8%水和剤	600倍散布 400, 500L/10a	2回	14日	圃場A: 1.26 (#)
					14日	圃場B: 1.66 (#)
いちご (果実)	2	メタラキシル 2%粒剤	定植前畝面土壌混和处理+ マルチ前土壌表面処理 10kg/10a (1回) + 10kg/10a (1回)	2回	89日	圃場A: 0.13 (#)
					63日	圃場B: 0.25 (#)
いちご (果実)	1	メタラキシル 2%粒剤	定植前畝面土壌混和处理 10kg/10a	1回	118日	圃場A: 0.03
いちご (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤+ 2%粒剤	1000倍散布 (3回) + 土壌混和 (1回) 1000, 300L/10a+10kg/10a	4回	77日	圃場A: 0.026
					86日	圃場B: 0.146
いちご (果実)	2	メタラキシルM 4%顆粒水和剤 + メタラキシル 2%粒剤	1000倍散布, 50mL/株 + 10kg/10a	3回 + 1回	96, 103, 110日	圃場A: <0.01 (#)
					63, 70, 77日	圃場B: 0.06 (#)
ぶどう (小粒種) (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	1回	45, 60, 80日	圃場A: 0.11 (#)
					44, 59, 75日	圃場B: 0.14 (#)
ぶどう (大粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	1回	49, 64, 83日	圃場A: 0.16 (#)
ぶどう (小粒種) (果実)	2	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	2回	45, 60, 80日	圃場A: 0.37 (#)
					44, 59, 75日	圃場B: 0.08 (#)
ぶどう (大粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	1250倍散布 300L/10a	2回	49, 64, 83日	圃場A: 0.40 (#) ※
ぶどう (小粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	2500倍散布 300L/10a	2回	60日	圃場A: 0.15 (#)
ぶどう (大粒種) (果実)	1	メタラキシル 25%水和剤	2500倍散布 300L/10a	2回	49日	圃場B: 0.14 (#)
ぶどう (果実)	2	メタラキシルM 4.2%フロアブル	1.21g/L散布, 826倍散布 300L/10a	2回	42, 56, 70日	圃場A: 0.04 (#)
						圃場B: 0.01 (#)
パッションフルーツ (果実)	2	メタラキシル 10%水和剤	1000倍散布 300L/10a	3回	30日	圃場A: <0.05
					30日	圃場B: <0.05
ホップ (乾花)	2	メタラキシル 2%粒剤	株元処理 20g/株	1回	122日	圃場A: 1.0
					113日	圃場B: 0.6
ホップ (乾花)	2	メタラキシル 2%粒剤+ 15%水和剤	株元処理(1回)+ 500倍散布(4回) 20g/株+ 300~600L/10a	5回	17日	圃場A: 5.8 (#)
					12日	圃場B: 20.0 (#) ※
ホップ (乾花)	2	メタラキシル 2%粒剤+ 15%水和剤	株元処理(1回)+ 500倍散布(3回) 20g/株+ 150~200, 350~700L/10a	4回	14, 21, 30, 44日	圃場A: 5.45 (#)
					14, 21, 30, 44日	圃場B: 8.63 (#)
みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* <sup>注4)</sup> 2%粒剤	土壌表面散布 30kg/10a	2回	30, 37日	圃場A: 1.02 (#)
みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 10および30kg/10a	2回	27日	圃場A: 0.64 (#)
みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 30kg/10a	1回	30, 37日	圃場A: 0.60 (#)
みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	1	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布 20kg/10a	1回	30, 37日	圃場A: 0.44

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) <sup>注1)</sup> 【メタラキシル 及びメタラキシルM】
		剤型	使用量・使用方法	回数	
みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	2	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布  20kg/10a	4回	28, 47, 62日 圃場A: 1.16 (#) ※
みょうが (その他のハーブ) (花蕾)	2	メタラキシル* 2%粒剤	土壌表面散布  20kg/10a	2回	73日 圃場A: 0.35 28日 圃場A: 0.30
べにばな いんげん (乾燥子実)	2	メタラキシルM 1.0%粒剤	1g/1苗(ポット苗)	1回	89, 96, 103日 圃場A: <0.02 91, 98, 105日 圃場B: <0.02
てんさい (根部)	2	メタラキシルM 1.7%水和剤 (フロアブル)	原液  8mL/種子100,000粒	1回	208日 圃場A: <0.01 188日 圃場B: <0.01
レタス (茎葉)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	<i>500倍散布</i>  200L/10a	3回	14日 圃場A: 0.02 (#) 圃場B: 0.09 (#)
アスパラガス (若莖)	2	メタラキシルM 3.3%水和剤 (フロアブル)	1000倍散布  200, 150L/10a	3回	7日 圃場A: <0.01 圃場B: <0.01

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) ※印は、基準設定根拠となった作物残留試験成績を上回る別の作物残留試験の残留値。

注4) メタラキシルMに係るみょうがの作物残留試験(\*印)は、既登録のメタラキシルと同じ剤型(粒剤)であり、投下薬量がメタラキシルの範囲内であるとして、メタラキシルの試験成績で代替されている。

## メタラキシル及びメタラキシルMの海外作物残留試験一覧表

(米国)

農作物	試験圃場数	試験条件			回数 経過日数		最大残留値(ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法				
インゲン (種実) ○小豆類	5	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布	1	90	圃場A: <0.05* (#) 注2,4)	
		メタラキシル 5%乳剤				圃場B: <0.05* (#)	
		メタラキシル 25.2%乳剤	4.0 lbs.ai/A 播種時、 全面土壌散布			圃場C: <0.05* (#)	
		メタラキシル 5%乳剤				圃場D: <0.05* (#)	
		メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場E: 0.06* (#) 圃場E: 0.06* (#)	
エンドウ (種実) ○えんどう	7	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布	1	66	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: <0.05* (#)	
			2.0 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場B: 0.11* (#) 圃場B: <0.05* (#)	
			4.0 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場C: 0.08* (#)	
			0.25 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場D: <0.05* 圃場D: <0.05*	
			0.5 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場E: 0.06*	
			2.0 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)	
		メタラキシル 5%粒剤	2.0 lbs.ai/A 播種時、全面土壌散布			圃場G: <0.05* (#) 圃場G: 0.06* (#)	
リマ豆 (種実) ○その他の豆類	4	メタラキシルM 4.7%水和剤	0.1 lbs.ai/A 播種時 全面土壌散布	4	3	圃場A: <0.05* 圃場A: <0.05*	
						圃場B: <0.05* 圃場B: <0.05*	
						圃場C: <0.05*	
						圃場D: <0.05* 圃場D: <0.05*	
○ばれいしょ (塊茎)	16	メタラキシル 25.2%乳剤、 メタラキシル 8%水和剤	メタラキシル25.2% 乳剤、種いも播種時 畝間処理 12 g a.i./1000 linear foot、 1回および メタラキシル8%水和剤、生育期、茎葉処理 0.2 lb.a.i./A、4回	5	4	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: <0.05* (#)	
		メタラキシルM 45.9%乳剤、 または メタラキシルM 3.96%水和剤 2%乳剤				メタラキシルM 45.9%乳剤、種いも播種 時、 6 g a.i./1000 linear foot、1回 および メタラキシルM3.96%水和剤、生育期、 茎葉処理 0.2 lb.a.i./A、4回	圃場B: <0.05* (#) 圃場B: <0.05* (#)
							圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
			メタラキシル8%水和剤、生育期、茎葉処理 0.2lb.a.i./A、4回 合計0.8 lb.a.i./A			圃場E: <0.05* (#) 圃場E: <0.05* (#)	
						圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#) 圃場H: <0.05* (#) 圃場H: <0.05* (#)	
						圃場I: <0.05* (#) 圃場I: <0.05* (#)	
						圃場J: <0.05* (#) 圃場J: <0.05* (#) 圃場K: <0.05* (#) 圃場K: <0.05* (#) 圃場L: <0.05* (#) 圃場L: <0.05* (#)	
						圃場M: <0.05* (#) 圃場M: <0.05* (#)	
			メタラキシルM 3.96%水和剤、生育期、茎葉処理 0.2 lb.a.i./A、4回、合計0.8			圃場N: <0.05* (#) 圃場N: <0.05* (#) 圃場O: <0.05* (#) 圃場O: <0.05* (#) 圃場P: <0.05* (#) 圃場P: <0.05* (#)	

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留値 (ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ばれいしょ	6	メタキシル25.1%乳剤 + メタキシル10.0%水和剤	メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布2回	3回	0日 (未成熟塊茎)	圃場A: 0.05 ** (#)
			圃場C: 0.51 ** (#)			
			圃場D: <0.05 ** (#)			
			圃場E: 0.16 ** (#)			
			メタキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布2回	圃場A: 0.06 ** (#)		
			圃場E: 0.28 ** (#)			
		メタキシル25.1%乳剤 + メタキシル10.0%水和剤	メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	7日 (成熟塊茎)	圃場A: 0.07 ** (#)
			圃場D: <0.05 ** (#)			
			圃場F: <0.05 ** (#)			
			メタキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	7日 (全塊茎)	圃場F: <0.05 ** (#)	
			9日 (成熟塊茎)	圃場E: 0.11 ** (#)		
			メタキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布4回	7日 (成熟塊茎)	圃場A: 0.05 ** (#)	
圃場D: <0.05 ** (#)						
7日 (全塊茎)	圃場F: <0.05 ** (#)					
9日 (成熟塊茎)	圃場E: 0.16 ** (#)					
メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布3回 + メタキシル水和剤 0.17 lbs. ai/A 茎葉散布1回	5回	8日 (成熟塊茎)	圃場C: 0.19 ** (#)			
だいこん (根部)	6	メタラキシル 25.2%乳剤 および メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A	3	7	圃場A: 0.24* (#)
圃場A: 0.29* (#)						
圃場B: 0.25* (#)						
だいこん (根部)		メタラキシル 25.2%乳剤 および メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A	3	7	圃場B: 0.35* (#)
圃場B: 0.57* (#)						
圃場C: 0.23* (#)						
だいこん (葉部)		メタラキシル 25.2%乳剤 および メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A	3	7	圃場C: 0.28* (#)
圃場A: 9.9* (#)						
圃場A: 13.3* (#)						
だいこん (葉部)		メタラキシル 25.2%乳剤 および メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A	3	7	圃場B: 5.7* (#)
圃場B: 6.2* (#)						
圃場B: 9.7* (#)						
だいこん (葉部)	メタラキシル 25.2%乳剤 および メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル25.2%乳剤1.0 lb. ai/A 1回茎葉散布および メタラキシル8.9% 水和剤 1.16 2回茎葉散布 合計3.32 lb. ai/A	3	7	圃場C: 1.4* (#)	
圃場C: 1.8* (#)						
圃場A: 0.16*						
だいこん (葉部 および 根部)	メタラキシル 25.2%乳剤  2%乳剤	メタラキシル25.2% 乳剤, 0.5 lb. a. i. /A 生育期、茎葉散布	1	16	圃場A: 0.16*	
メタラキシル25.2% 乳剤, 1.0 lb. a. i. /A 生育期、茎葉散布		圃場B: 0.08*				
メタラキシル25.2% 乳剤, 1.0 lb. a. i. /A 播種時、畝間散布		圃場C: 0.09*				

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数 経過日数	
だいこん (根部)	4	メタラキシル25.1%乳剤 + メタラキシル10.0%水和剤	メタラキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタラキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布2回	3回	7日 圃場A: 0.29 ** (#) 圃場B: 0.28 ** (#) 圃場C: 0.35 ** (#)
			メタラキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタラキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布2回		7日 圃場F: 0.57 ** (#)
メタラキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタラキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布2回			7日 圃場A: 13 ** (#) 圃場B: 1.8 ** (#) 圃場C: 6.2 ** (#)		
メタラキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタラキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布2回			7日 圃場C: 14 ** (#)		
だいこん (葉部)					
トマト (成熟果実)	6	メタラキシル 25.2%乳剤 および メタラキシル 8.9%水和剤	メタラキシル25.2%乳剤0.99 lb. ai/A 2回土壌表面散布 および メタラキシル8.9% 水和剤 0.25 lb. ai/A 4回茎葉散布 合計2.98 lb. ai/A	6	5 圃場A: 0.18* (#) 圃場A: 0.14* (#)
			メタラキシル25.2%乳剤2.97 lb. ai/A 2回土壌表面散布 および メタラキシル8.9% 水和剤 0.75 lb. ai/A 4回茎葉散布 合計8.94 lb. ai/A		4 圃場B: <0.05* (#) 圃場B: 0.05* (#)
			メタラキシル25.2%乳剤4.95 lb. ai/A 2回土壌表面散布 および メタラキシル8.9% 水和剤 1.25 lb. ai/A 4回茎葉散布 合計14.9 lb. ai/A		5 圃場C: 0.44* (#) 圃場C: 0.53* (#)
					4 圃場D: 0.16* (#) 圃場D: 0.20* (#)
					5 圃場E: 1.8* (#) 圃場E: 2.5* (#)
					4 圃場F: 0.27* (#) 圃場F: 0.26* (#)
スナッフ エンドウ (鞘および 種実) ○未成熟えんどう	8	メタラキシルM 49%乳剤 および メタラキシルM 4.7%水和剤 2%乳剤	メタラキシルM 49%乳剤、定植前、土壌表面散布 0.5 lbs. ai/A、1回 および メタラキシルM 4.7水和剤、茎葉散布 0.1 lbs. ai/A、2回 合計0.7 lbs. ai/A	3	7 圃場A: <0.05 (#) 圃場B: <0.05 (#) 圃場C: <0.05 (#)
					6 圃場D: <0.05 (#)
					7 圃場E: <0.05 (#)
					0 圃場F: 0.531 (#)
					6 圃場F: 0.172 (#)
					14 圃場F: 0.074 (#)
					0 圃場G: 0.05 (#)
					6 圃場G: <0.05 (#)
					13 圃場G: <0.05 (#)
					6 圃場H: <0.05 (#)
未成熟 インゲン (青刈) 未成熟いんげん	4	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs. ai/A、 全面散布	1	62 圃場A: 0.86* (#) 圃場B: 0.61* (#) 圃場B: 0.52* (#)
		メタラキシル 5%粒剤	4.0 lbs. ai/A、 全面散布		圃場C: 0.81* (#)
		メタラキシル 25.2%乳剤			圃場D: 0.60* (#)
		メタラキシル 5%粒剤			
未成熟 大豆 (青刈) ○えだまめ	6	メタラキシル 25.2%乳剤	2.0 lbs. ai/A、 全面散布	1	65 圃場A: 0.11 (#) 圃場B: 0.11 (#)
			4.0 lbs. ai/A、 全面散布		59 圃場C: 0.10 (#) 圃場D: <0.05 (#)
			2.0 lbs. ai/A、 全面散布		64 圃場D: <0.05 (#) 圃場E: 0.05 (#)
			4.0 lbs. ai/A、 全面散布		59 圃場F: <0.05 (#)



農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留値 (ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
○すもも (果実)	2	メタラキシル 25.2%乳剤	8.0 lbs.ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs.ai/A	3	0	圃場A: 0.19* (#) 圃場A: 0.17* (#)
					14	圃場A: 0.27* (#) 圃場A: 0.26* (#)
					30	圃場A: 0.24* (#) 圃場A: 0.23* (#)
		16.0 lbs.ai/A 全面土壌散布3回 合計48.0 lbs.ai/A	0		圃場B: 0.34* (#) 圃場B: 0.33* (#)	
			14		圃場B: 0.41* (#) 圃場B: 0.35* (#)	
			30		圃場B: 0.47* (#) 圃場B: 0.42* (#)	
○おうとう (果実)	7	メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	8.0 lbs.ai/A 全面土壌散布3回 合計24.0 lbs.ai/A	3	0	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: 0.07* (#)
					13	圃場A: 0.09* (#) 圃場A: <0.05* (#)
					30	圃場A: 0.07* (#) 圃場A: <0.05* (#)
					15	圃場B: 0.12* (#) 圃場B: 0.17* (#)
					31	圃場B: 0.12* (#) 圃場B: 0.12* (#)
					15	圃場C: 0.32* (#)
					31	圃場C: 0.25* (#)
					0	圃場D: 0.35* (#) 圃場D: 0.24* (#)
					14	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: 0.05* (#)
		28	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)			
		0	圃場E: 0.26* (#) 圃場E: 0.26* (#)			
		14	圃場E: 0.10* (#) 圃場E: 0.13* (#)			
		28	圃場E: 0.10* (#) 圃場E: 0.08* (#)			
		14	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)			
		28	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)			
		14	圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)			
		28	圃場G: <0.05* (#) 圃場G: <0.05* (#)			
		○いちご (果実)	8		メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	1.0 lbs.ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs.ai/A
圃場A: 3.4* (#)						
圃場B: 2.5* (#)						
圃場B: 2.4* (#)						
圃場C: 2.6* (#)						
圃場C: 2.8* (#)						
圃場D: 3.7* (#)						
圃場D: 4.5* (#)						
メタラキシル 50%水和剤	1.0 lbs.ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs.ai/A	圃場E: 3.2* (#)				
		圃場E: 1.1* (#)				
メタラキシル 25.2%乳剤 2%乳剤	1.0 lbs.ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs.ai/A	圃場E: 3.5* (#)				
		圃場F: 0.93* (#)				
メタラキシル 50%水和剤	1.0 lbs.ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs.ai/A	圃場G: 3.1* (#)				
		圃場G: 3.0* (#)				
メタラキシル 50%水和剤	1.0 lbs.ai/A 定植時1回散布 生育期2回散布 合計3.0 lbs.ai/A	圃場H: 2.7* (#)				
		圃場H: 2.3* (#)				

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
○ブルーベリー (果実)	13	メタラキシル 25.2%乳剤	3.62 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	2	0	圃場A: 1.63* (#) 圃場A: 1.54* (#)
					18	圃場A: 0.24* (#) 圃場A: 0.13* (#)
					34	圃場A: <0.05* (#) 圃場A: 0.07* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場B: 1.53* (#)
					18	圃場B: 0.46* (#)
					34	圃場B: 0.25* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場C: 0.06* (#)
					16	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
					31	圃場C: 0.05* (#) 圃場C: 0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場D: 0.07* (#) 圃場D: 0.07* (#)
					14	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
					29	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場E: 0.10* (#)
					14	圃場E: 0.17* (#)
					29	圃場E: 0.24* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)
					14	圃場F: 0.06* (#) 圃場F: 1.62* (#)
					28	圃場F: 0.09* (#) 圃場F: 0.09* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場G: 0.15* (#)
					14	圃場G: 0.15* (#)
					28	圃場G: 0.16* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場H: <0.05* (#)
					14	圃場H: <0.05* (#)
					28	圃場H: <0.05* (#)
			7.24 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A		0	圃場I: <0.05* (#)
					14	圃場I: <0.05* (#)
					28	圃場I: <0.05* (#)
			3.62 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A		0	圃場J: <0.05* (#)
	14	圃場J: <0.05* (#)				
	28	圃場J: 0.08* (#)				
7.24 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A	0	圃場K: <0.05* (#)				
	14	圃場K: <0.05* (#)				
	28	圃場K: 0.07* (#)				
3.62 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計7.24 lbs. ai/A	0	圃場L: 1.1* (#)				
	14	圃場L: 0.05* (#)				
	30	圃場L: <0.05* (#)				
7.24 lbs. ai/A 带状土壌散布1回 土壌灌注1回 合計14.48 lbs. ai/A	0	圃場M: 0.61* (#)				
	14	圃場M: <0.05* (#)				
	28	圃場M: 0.05* (#)				



農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
○アモト <sup>®</sup> (子実)	6	メタラキシル 25.2%乳剤	8.0 lbs.ai/A 全面散布	1	0	圃場A: 0.17* (#) 圃場A: 0.16* (#)
					14	圃場A: 0.25* (#) 圃場A: 0.25* (#)
					29	圃場A: 0.20* (#) 圃場A: 0.19* (#)
					0	圃場B: 0.23* (#) 圃場B: 0.23* (#)
					14	圃場B: 0.33* (#) 圃場B: 0.36* (#)
					29	圃場B: 0.32* (#) 圃場B: 0.31* (#)
			16.0 lbs.ai/A 全面散布	1	0	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
					14	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
					28	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)
					0	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
					14	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
					28	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)
			8.0 lbs.ai/A 全面散布	1	0	圃場E: 0.15* (#) 圃場E: 0.19* (#)
					14	圃場E: 0.19* (#) 圃場E: 0.22* (#)
					29	圃場E: 0.17* (#) 圃場E: 0.17* (#)
					0	圃場F: 0.88* (#) 圃場F: 0.59* (#)
					14	圃場F: 0.80* (#) 圃場F: 0.66* (#)
					29	圃場F: 0.71* (#) 圃場F: 0.57* (#)
			16.0 lbs.ai/A 全面散布	1	0	圃場A: 0.08* (#) 圃場A: 0.07* (#)
					15	圃場A: 0.07* (#) 圃場A: 0.09* (#)
					30	圃場A: 0.06* (#) 圃場A: 0.08* (#)
					0	圃場B: 0.08* (#) 圃場B: 0.08* (#)
					15	圃場B: 0.08* (#) 圃場B: 0.13* (#)
					30	圃場B: 0.07* (#) 圃場B: <0.05* (#)
8.0 lbs.ai/A 全面散布	1	0	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)			
		14	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)			
		30	圃場C: <0.05* (#) 圃場C: <0.05* (#)			
		0	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)			
		14	圃場D: 0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)			
		30	圃場D: <0.05* (#) 圃場D: <0.05* (#)			
16.0 lbs.ai/A 全面散布	1	0	圃場E: <0.05* (#) 圃場E: <0.05* (#)			
		16	圃場E: <0.05* (#) 圃場E: <0.05* (#)			
		30	圃場E: <0.05* (#) 圃場E: <0.05* (#)			
		0	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)			
		16	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)			
		30	圃場F: <0.05* (#) 圃場F: <0.05* (#)			

農作物	試験圃場数	試験条件			回数	経過日数	最大残留値 (ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法				
結球レタス	14	メタキシル25.1%乳剤 もしくは メタキシル5%粒剤 + メタキシル10.0%水和剤	メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理(混和)1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	7日, 14日	圃場A: 0.08 ** 注6) (#)	
						圃場B: 1.5 ** (#)	
						圃場C: 0.50 ** (#)	
					圃場D: 0.19 ** (#)		
					圃場E: 4.3 ** (#)		
					圃場F: 1.4 ** (#)		
					4日	圃場J: 0.44 ** (#)	
					5日	圃場G: 3.3 ** (#)	
						圃場H: 2.3 ** (#)	
			圃場I: 0.49 ** (#)				
				圃場K: <0.05 ** (#)			
				圃場L: 0.33 ** (#)			
				圃場N: 0.63 ** (#)			
			7日	圃場M: 0.1 ** (#)			
			4日	圃場J: 0.89 ** (#)			
			5日	圃場G: 3.7 ** (#)			
				圃場H: 4.9 ** (#)			
				圃場I: 0.12 ** (#)			
			圃場K: 0.47 ** (#)				
			7日	圃場M: 0.21 ** (#)			
	6	メタキシル25.1%乳剤 + メタキシル10.0%水和剤	メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	7日, 14日	圃場A: 0.08 ** (#)	
						圃場D: 0.19 ** (#)	
			圃場E: 4.25 ** (#)				
			圃場F: 1.43 ** (#)				
			7日	圃場B: 1.46 ** (#)			
			メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布5回	6回	7日, 14日	圃場C: 0.50 ** (#)	
	8	メタキシル5%粒剤 + メタキシル10.0%水和剤	メタキシル粒剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	5日	圃場A: 3.3 ** (#)	
						圃場B: 2.3 ** (#)	
						圃場C: 0.49 ** (#)	
				圃場E: <0.05 ** (#)			
				圃場F: 0.33 ** (#)			
				圃場H: 0.63 ** (#)			
			7日	圃場G: 0.10 ** (#)			
			メタキシル粒剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	5日	圃場D: 0.89 ** (#)	
			圃場A: 3.7 ** (#)				
			圃場B: 4.9 ** (#)				
						圃場E: 0.12 ** (#)	
						圃場H: 0.47 ** (#)	
					7日	圃場G: 0.21 ** (#)	

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数 経過日数		
非結球レタス	10	メタネキル25.1%乳剤もしくはメタネキル5%粒剤 + メタネキル10.0%水和剤	メタネキル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理(混和)1回 + メタネキル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回 5日	圃場A: 3.8 ** (#)	
					圃場B: 0.71 ** (#)	
					圃場C: 1.4 ** (#)	
					圃場D: 1.6 ** (#)	
			圃場E: 0.80 ** (#)			
			圃場F: 1.4 ** (#)			
			圃場G: 1.6 ** (#)			
			圃場H: 0.80 ** (#)			
			圃場B: 1.1 ** (#)			
			圃場C: 1.2 ** (#)			
			圃場D: 0.82 ** (#)			
			圃場F: 1.7 ** (#)			
	圃場H: 3.6 ** (#)					
セロリ	8	メタネキル25.1%乳剤もしくはメタネキル5%粒剤 + メタネキル10.0%水和剤	メタネキル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理(混和)1回 + メタネキル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回 5日	圃場A: 1.6 ** (#)	
					圃場B: 0.42 ** (#)	
					圃場C: 0.57 ** (#)	
					圃場D: 0.88 ** (#)	
			圃場E: 1.8 ** (#)			
			圃場F: 0.83 ** (#)			
			圃場G: 2.1 ** (#)			
			圃場A: 0.67 ** (#)			
			圃場B: 0.42 ** (#)			
			圃場G: 2.1 ** (#)			
			圃場H: 11(☆☆)注7) ** (#)			
			圃場A: 2.3 ** (#)			
	圃場C: 1.1 ** (#)					
	圃場D: 2.5 ** (#)					
	圃場F: 1.2 ** (#)					
にんじん (根部)	4	メタネキル25.1%乳剤 + メタネキル10.0%水和剤	メタネキル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタネキル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	7日	圃場A: <0.05 ** (#)
					圃場B: 0.22 ** (#)	
					圃場C: 0.06 ** (#)	
					圃場D: <0.05 ** (#)	
にんじん (葉部)	4	メタネキル25.1%乳剤 + メタネキル10.0%水和剤	メタネキル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタネキル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	7日	圃場A: 0.9 ** (#)
					圃場B: 0.26 ** (#)	
			メタネキル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタネキル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回		7日	圃場A: 2.9 ** (#)
					圃場B: 6.7 ** (#)	
	圃場C: 3.6 ** (#)					
	圃場D: 1.7 ** (#)					
	圃場A: 4.4 ** (#)					
	圃場B: 7.1 ** (#)					

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数 経過日数		
てんさい (根部)	7	メタキシル25.1%乳剤 + メタキシル10.0%水和剤	メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	7日	圃場A: 0.10 ** (#) 圃場B: 0.10 ** (#) 圃場C: 0.11 ** (#) 圃場D: 0.20 ** (#) 圃場E: 0.10 ** (#) 圃場G: 0.036 ** (#)
			メタキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布4回		8日	圃場E: <0.05 ** (#)
			メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回		7日	圃場F: 0.90 ** (#) 圃場G: 0.07 ** (#)
			メタキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布4回		7日	圃場F: 3.2 ** (#)
てんさい (葉部)	7	メタキシル25.1%乳剤 + メタキシル10.0%水和剤	メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回	5回	7日	圃場A: 4.4 ** (#) 圃場B: 4.2 ** (#) 圃場C: 1.5 ** (#) 圃場D: 2.3 ** (#) 圃場F: 2.1 ** (#)
			メタキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布4回		8日	圃場E: 1.1 ** (#)
			メタキシル乳剤 2.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.2 lbs. ai/A 茎葉散布4回		7日	圃場F: 3.2 ** (#)
			メタキシル乳剤 4.0 lbs. ai/A 植付時土壌処理1回 + メタキシル水和剤 0.4 lbs. ai/A 茎葉散布4回		7日	圃場F: 3.2 ** (#)

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫時間が最短の場合のみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過について（ ）内に記載した。

注2) (#)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

注4) \*印で示した作物残留試験成績はメタラキシルおよびその代謝物を加水分解して生成した2,6-ジメチルアニリンを定量し、換算係数2.305をかけてメタラキシル当量の値として示している。

注5) (☆) 棄却検定での外れ値 (p<0.01) により、評価対象から除外。

注6) \*\*印で示した作物残留試験成績はDMA-TFA (2,6-ジメチルアニリン-トリフルオロ酢酸塩) として検出された残留量に補正值1.188を乗じて、メタラキシル等量として示している。

注7) (☆☆)印で示した作物残留試験成績は高温のため試料調製に不適切な条件であった。

(E U)

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値(ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
○たまねぎ 注4) (鱗茎)	4	メタラキシルM 4%水和剤 散布	450 g a. i. /ha 散布	3	0	圃場A: 0.06 (＃) 注2)
					4	圃場A: 0.02 (＃)
					7	圃場A: <0.02 (＃)
					14	圃場A: <0.02
					21	圃場A: <0.02
					0	圃場B: 0.07 (＃) ※
					3	圃場B: <0.02 (＃)
					7	圃場B: 0.02 (＃)
					14	圃場B: <0.02
					21	圃場B: <0.02
					0	圃場C: 0.04 (＃)
					7	圃場C: <0.02 (＃)
					14	圃場C: <0.02
					21	圃場C: <0.02
					0	圃場D: <0.02 (＃)
					7	圃場D: <0.02 (＃)
14	圃場D: <0.02					
21	圃場D: <0.02					
レモン	4	メタラキシルM 2.5%粒剤 42.5%水和剤	2.5%粒剤 1 g a. i. /樹 株元処理2回 200 g a. i. /ha 茎葉散布2回	4	0	圃場A: 0.27 (全果) 注3) (＃)
					7	圃場A: 0.10 (全果) (＃)
					15	圃場A: 0.08 (全果換算) (＃)
					0	0.14 (果皮) (＃)
					30	圃場A: 0.05 (全果) (＃)
					0	圃場B: 0.48 (全果) (＃)
					7	圃場B: 0.31 (全果) (＃)
					15	圃場B: 0.37 (全果換算) (＃)
					0	0.68 (果皮) (＃)
					30	圃場B: 0.32 (全果) (＃)
					0	圃場C: 0.27 (全果) (＃)
					7	圃場C: 0.24 (全果) (＃)
					15	圃場C: 0.28 (全果換算) (＃)
					0	0.48 (果皮) (＃)
					30	圃場C: 0.25 (全果換算) (＃)
					0	0.43 (果皮) (＃)
0	圃場D: 0.32 (全果) (＃)					
7	圃場D: 0.20 (全果) (＃)					
15	圃場D: 0.41 (全果換算) (＃)					
0	0.63 (果皮) (＃)					
30	圃場D: 0.27 (全果換算) (＃)					
0	0.50 (果皮) (＃)					
オレンジ	2	メタラキシル 25%水和剤	25%水和剤 320 g a. i. /ha 茎葉散布 (計 1920 g a. i. /ha)	6	137	圃場E: <0.03 (全果実) (＃)
			25%水和剤 320 g a. i. /ha 茎葉散布 (計 1920 g a. i. /ha)		137	圃場F: <0.03 (全果実) (＃)
			2.5%粒剤 1.00 g/sqm 土壌処理2回 42.5%水和剤 3179g . i. /ha 茎葉散布2回		0	圃場A: 0.38 (全果) (＃)
			15		圃場A: 0.11 (全果換算) (＃)	
0	0.25 (果皮) (＃)					
0	圃場B: 0.05 (全果平均) (＃)					
15	圃場B: 0.02 (全果換算) (＃)					
0	0.04 (果皮) (＃)					
0	圃場C: 0.09 (全果平均) (＃)					
3	圃場C: 0.06 (全果平均) (＃)					
7	圃場C: 0.05 (全果平均) (＃)					
15	圃場C: 0.03 (全果換算) (＃)					
0	0.06 (果皮) (＃)					
21	圃場C: <0.02 (全果平均) (＃)					
0	圃場D: 0.29 (全果平均) (＃)					
4	圃場D: 0.07 (全果平均) (＃)					
7	圃場D: 0.05 (全果平均) (＃)					
15	圃場D: 0.05 (全果換算) (＃)					
0	0.11 (果皮平均) (＃)					
21	圃場D: 0.03 (全果平均) (＃)					
0	圃場E: 1.0 (全果平均) (＃)					
14	圃場E: 0.11 (全果換算) (＃)					
0	0.24 (果皮) (＃)					
マンダリン (その他のかんきつ類果実)	4	メタラキシルM 42.5%水和剤	42.5%水和剤 200 g a. i. /ha 茎葉散布 (計 400g a. i. /ha)	2	0	圃場A: 0.39 (全果) (＃)
			3		圃場A: 0.20 (全果) (＃)	
			7		圃場A: 0.18 (全果) (＃)	
			15		圃場A: 0.17 (全果) (＃)	
			30		圃場A: 0.13 (全果) (＃)	
			14		圃場B: 0.08 (全果換算) (＃)	
			15		圃場C: 0.16 (全果換算) (＃)	
			0		圃場D: 0.21 (全果) (＃)	
			16		圃場D: 0.17 (全果換算) (＃)	
			0		0.41 (果皮) (＃)	

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留値(ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		
○りんご	4	メタラキシルM 2.5%粒剤	10 kg a. i. /ha (4g a. i. /tree)	2	0	圃場A: <0.02 (H)
					4	圃場A: <0.02 (H)
					7	圃場A: <0.02 (H)
					14	圃場A: <0.02 (H)
		21	圃場A: <0.02			
		0	圃場B: <0.02 (H)			
		3	圃場B: <0.02 (H)			
		7	圃場B: <0.02 (H)			
	14	圃場B: <0.02 (H)				
	21	圃場B: <0.02				
	4	メタラキシルM 2.5%粒剤	1 g a. i. /tree	2	0	圃場C: <0.02 (H)
					7	圃場C: <0.02 (H)
					14	圃場C: <0.02 (H)
					21	圃場C: <0.02
		0	圃場D: <0.02 (H)			
		7	圃場D: <0.02 (H)			
14		圃場D: <0.02 (H)				
21		圃場D: <0.02				

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見書」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (H)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注3) 全果（fruit）は、全果を分析した残留値。全果換算（fruit subspecimen）は、果実と果皮に分けて分析し、全果の濃度に換算した値。平均値の算出においては、全果又は全果換算のPHIの値を全果として算出に供している。

注4) EUでは、Garlic and shallotの基準値設定に係る代替を兼ねて、bulb onionsの試験成績が記載されている。garlicの残留試験は実施されていないが、bulb onionsの試験成績をGarlicおよびshallotsに外挿可能とされている。（また、spring onionsの試験成績はWelsh onionsに外挿可能とされている。）

食品名	基準値案 ppm	基準値現行 ppm	登録有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際基準 ppm	外国基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.1	0.1	○	0.05		<0.01, 0.02
小麦	0.05	0.05		0.05		
大麦	0.05	0.05		0.05		
ライ麦	0.05	0.05		0.05		
とうもろこし	0.05	0.05		0.05		
そば	0.05	0.05		0.05		
その他の穀類	0.05	0.05		0.05		
大豆	0.05	0.05	○	0.05		
小豆類	0.2	0.2	○			
えんどう	0.2	0.2				
らっかせい	0.1	0.1		0.1		
その他の豆類	0.2	0.2				
ばれいしょ	0.3	0.3	○	0.05		<0.05(#),0.06(#), 0.11(#),0.16(#) 【<0.05(#)(n=16)/ <0.05(#)~0.19(#)(n=8) (米国)】
やまいも(長いもをいう。)	0.4		IT		0.5*	アメリカ
こんにやくいも	0.3	0.3	○			【米国ばれいしょ、てんさい、 だいこん(根)及び にんじん参照】
てんさい	0.05	0.05		0.05		【<0.05(#)~0.90(#)(n=9) (米国)】
さとうきび	0.05	0.05	○			<0.01, <0.01
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.2	0.2	○			0.03, 0.05 【0.23(#)~0.57(#)(n=3)/ 0.28(#)~0.57(#)(n=4) (米国)】
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	0.2	0.2	○			0.04, 0.05
かぶ類の根	0.3	0.3	○			<0.1, <0.1
かぶ類の葉	0.3	0.3	○			<0.1, <0.1
西洋わさび	0.2	0.2	○			<0.02, 0.03 (わさびだいこん)
はくさい	0.3	0.3	○			0.020, 0.088
キャベツ	0.5	0.5	○	0.5		
芽キャベツ	0.2	0.2		0.2		
こまつな	1	1	○			0.20, 0.44
きょうな	3	3	○			1.02, 0.40 (みずな)
チンゲンサイ	2	2	○			0.52, 0.16
カリフラワー	0.5	0.5		0.5		
ブロッコリー	0.5	0.5	○	0.5		<0.1, <0.01
その他のあぶらな科野菜	0.7	0.7	○			0.26, 0.25 (ひろしまな)
しゅんぎく	4		IT		5.0*	アメリカ
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	2	2		2		【米国レタス及びセロリ 参照】 【<0.05(#)~4.9(#)(n=40)/ 0.58(#)~8.4(#)(n=20) (米国)】
その他のきく科野菜	4		IT		5.0*	アメリカ

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
たまねぎ	2	2	○	2		【<0.02(n=4)(EU)】
ねぎ(リーキを含む。)	0.2	0.2	○			0.02(#), 0.03(#)
にんにく	0.5	0.5			0.5    EU	【EUたまねぎ参照】
アスパラガス	0.05	0.05		0.05		
わけぎ	0.2	0.2				
その他のゆり科野菜	0.3	0.3	○			<0.1, <0.1(らっきょう)
にんじん	0.4	0.05	IT	0.05	0.5*    アメリカ	【<0.05(#)~0.26(#)(n=6) (米国)】
パセリ	2	2	○			0.40, 0.56
セロリ	4		IT		5.0*    アメリカ	【0.42(#)~2.5(#)(n=15) (米国)】
みつば	2	2	○			0.74, <0.05
その他のせり科野菜	1	1	○			0.15, 0.34(せり)
トマト	2	2	○	0.5		0.20, 0.66(ミニトマト)
ピーマン	2	2	○	1		0.38(#), 0.05(#), 0.31(#), 0.60(#)
なす	1	1	○			0.20, 0.50
その他のなす科野菜	1	1	○	1		
きゅうり(ガーキンを含む。)	1	1	○	0.5		0.20(#), 0.50(#), 0.16(#), 0.39(#)
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	0.2	0.2	○	0.2		0.05, 0.03
すいか	0.2	0.2	○	0.2		
メロン類果実	0.7	0.7	○	0.2		0.23(#), 0.04(#)
ほうれんそう	2	2	○	2		
オクラ	1	1	○			0.10, 0.34
しょうが	1	1	○			0.30, 0.31
未成熟えんどう	0.2	0.2		0.05		
未成熟いんげん	0.2	0.2				
えだまめ	0.2	0.2				
その他の野菜	3	3	○	0.05		
みかん	0.2	0.2	○			0.04(#), 0.02(#)
レモン	0.7	0.7				
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.7	0.7				
グレープフルーツ	0.7	0.7				
ライム	0.7	0.7				
その他のかんきつ類果実	0.7	0.7				
りんご	0.2	0.2				
日本なし	0.2	0.2				
西洋なし	0.2	0.2				
マルメロ	0.2	0.2				
びわ	0.2	0.2				



食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
もも	0.2	0.2				
ネクタリン	0.2	0.2				
あんず(アブリコットを含む。)	0.2	0.2				
すもも(プルーンを含む。)	0.2	0.2				
おうとう(チェリーを含む。)	0.2	0.2				
いちご	7	7	○	0.2	10* アメリカ	【0.93(#)~4.5(#)(n=8) (米国)】
ラズベリー	0.2	0.2				
ブラックベリー	0.2	0.2				
ブルーベリー	2	2				
その他のベリー類果実	0.2	0.2				
ぶどう	1	1	○	1		
アボカド	0.2	0.2		0.2		
パッションフルーツ	0.2	0.2	○			<0.05, <0.05
ひまわりの種子	0.05	0.05		0.05		
綿実	0.05	0.05		0.05		
アーモンド	0.4	0.4			0.5* アメリカ	【<0.05(#)~0.88(#) (n=6)(米国)】
くるみ	0.4	0.4			0.5* アメリカ	【<0.05(#)~0.13(#) (n=6)(米国)】
カカオ豆	※0.2	0.2		0.2		
ホップ	10	10	○	10		
その他のスパイス(種子を除く。)	5	5	○			1.26(#), 1.66(#) (みかん果皮)
その他のハーブ	2	2	○			0.64(#), 0.35 (みょうが)
牛の筋肉	0.02	0.02			0.05** カナダ	
豚の筋肉	0.02	0.02			0.05** カナダ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.02	0.02			0.05** カナダ	
牛の脂肪	0.02	0.02			0.05** カナダ	
豚の脂肪	0.02	0.02			0.05** カナダ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.02	0.02			0.05** カナダ	
牛の肝臓	0.1	0.1			0.3** カナダ	
豚の肝臓	0.1	0.1			0.3** カナダ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.1	0.1			0.3** カナダ	
牛の腎臓	0.3	0.3			0.85** カナダ	
豚の腎臓	0.3	0.3			0.85** カナダ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.3	0.3			0.85** カナダ	
牛の食用部分	0.02	0.02			0.05** カナダ	
豚の食用部分	0.02	0.02			0.05** カナダ	
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.02	0.02			0.05** カナダ	
鶏の筋肉	0.01	0.01			0.05** カナダ	
その他の家きんの筋肉	0.01	0.01			0.05** カナダ	

食品名	基準値案 ppm	基準値現行 ppm	登録有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際基準 ppm	外国基準値 ppm	
鶏の脂肪	0.01	0.01			0.05** カナダ	
その他の家きんの脂肪	0.01	0.01			0.05** カナダ	
鶏の肝臓	0.06	0.06			0.3** カナダ	
その他の家きんの肝臓	0.06	0.06			0.3** カナダ	
鶏の腎臓	0.2	0.2			0.7** カナダ	
その他の家きんの腎臓	0.2	0.2			0.7** カナダ	
鶏の食用部分	0.01	0.01			0.05** カナダ	
その他の家きんの食用部分	0.01	0.01			0.05** カナダ	
鶏の卵	0.01	0.01			0.05** カナダ	
その他の家きんの卵	0.01	0.01			0.05** カナダ	
魚介類	0.1		申			推:0.098
乾燥させたその他のスパイス(種子に限る。)	5	5				
とうがらし(乾燥させたもの)	10			10		

(#)これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。  
 「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。  
 「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留量であることを示している。

※ カカオ豆の基準値については、外皮を含まないものに適用するものとする。

- 作物残留試験の分析対象  
 JMPR及びEUではD-鏡像異性体のメタラキシルMを対象とし、米国及びカナダではメタラキシル及びメタラキシルM並びにその代謝物をまとめて加水分解し、2,6-ジメチルアニリンを生成させ、その総量をメタラキシル又はメタラキシルMの残留値としている。豪州ではラセミ体のメタラキシルを分析対象としている。

「外国基準値」欄に「\*印」の記載のあるものは、基準値を設定する際に、米国又はカナダの基準を参照した箇所  
 で、代謝物が含まれている。

- \* 農産物では、植物体内運命試験成績から、親化合物と2,6-ジメチルアニリンに変換されると推測される代謝物の合計に対する親化合物の推定最大割合の1/1.5≒0.7を換算係数として乗じ、一律基準を超える農産物について、下2桁目を切り上げて基準値を設定した。
- \*\* 畜産物では、親化合物と2,6-ジメチルアニリンに変換されると推測される代謝物の合計に対する親化合物と代謝物Dの推定最大割合と推定される0.2~0.3の係数(家畜0.3、家きん0.2)をカナダの基準値に乘じ、一律基準を超える畜産物について、端数を切り上げて基準値を設定した。

(別紙3)

メタラキシル及びメフェノキサム推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品名	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米(玄米をいう。)	0.1	18.5	9.8	14.0	18.9
小麦	0.05	5.8	4.1	6.2	4.2
大麦	0.05	0.3	0.0	0.0	0.2
ライ麦	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.05	0.1	0.2	0.1	0.0
そば	0.05	0.2	0.0	0.1	0.2
その他の穀類	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
大豆	0.05	2.8	1.7	2.3	2.9
小豆類	0.2	0.3	0.1	0.0	0.5
えんどう	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1
らっかせい	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
その他の豆類	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ばれいしょ	0.3	11.0	6.4	11.9	8.1
やまいも(長いもをいう。)	0.4	1.0	0.2	0.6	1.7
こんにやくいも	0.3	3.9	1.7	3.3	4.0
てんさい	0.05	0.2	0.2	0.2	0.2
さとうきび	0.05	0.7	0.6	0.5	0.6
だいこん類(ラディッシュを含む。)	0.2	9.0	3.7	5.7	11.7
だいこん類(ラディッシュを含む。)	0.2	0.4	0.1	0.2	0.7
かぶ類の根	0.3	0.8	0.2	0.2	1.3
かぶ類の葉	0.3	0.2	0.0	0.1	0.3
西洋わさび	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
はくさい	0.3	8.8	3.1	6.6	9.5
キャベツ	0.5	11.4	4.9	11.5	10.0
芽キャベツ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
こまつな	1	4.3	2.0	1.6	5.9
きょうな	3	0.9	0.3	0.3	0.9
チンゲンサイ	2	2.8	0.6	2.0	3.8
カリフラワー	0.5	0.2	0.1	0.1	0.2
ブロッコリー	0.5	2.3	1.4	2.4	2.1
その他のあぶらな科野菜	0.7	1.5	0.2	0.1	2.2
しゅんぎく	4	10.0	2.4	7.6	14.8
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	2	12.2	5.0	12.8	8.4
その他のきく科野菜	4	1.6	0.4	2.0	2.8
たまねぎ	2	60.6	37.0	66.2	45.2
ねぎ(リーキを含む。)	0.2	2.3	0.9	1.6	2.7
にんにく	0.5	0.2	0.1	0.1	0.2
アスパラガス	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
わけぎ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1
その他のゆり科野菜	0.3	0.3	0.0	0.0	0.5
にんじん	0.4	9.8	6.5	10.0	8.9
パセリ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
セロリ	4	1.6	0.4	1.2	1.6
みつば	2	0.4	0.2	0.2	0.4
その他のせり科野菜	1	0.1	0.1	0.1	0.3
トマト	2	48.6	33.8	49.0	37.8
ピーマン	2	8.8	4.0	3.8	7.4
なす	1	4.0	0.9	3.3	5.7
その他のなす科野菜	1	0.2	0.1	0.1	0.3
きゅうり(ガーキンを含む。)	1	16.3	8.2	10.1	16.6
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	0.2	1.9	1.2	1.4	2.3
すいか	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
メロン類果実	0.7	0.3	0.2	0.07	0.2

食品名	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	小児 (1～6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
ほうれんそう	2	37.4	20.2	34.8	43.4
オクラ	1	0.3	0.2	0.2	0.3
しょうが	1	0.6	0.2	0.7	0.7
未成熟えんどう	0.2	0.1	0.0	0.1	0.1
未成熟いんげん	0.2	0.4	0.2	0.4	0.4
えだまめ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の野菜	3	37.8	29.1	28.8	36.6
みかん	0.2	8.3	7.1	9.2	8.5
レモン	0.7	0.2	0.1	0.2	0.2
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	0.7	0.3	0.4	0.6	0.1
グレープフルーツ	0.7	0.8	0.3	1.5	0.6
ライム	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のかんきつ類果実	0.7	0.3	0.1	0.1	0.4
りんご	0.2	7.1	7.2	6.0	7.1
日本なし	0.2	1.0	0.9	1.1	1.0
西洋なし	0.2	0.02	0.02	0.02	0.02
マルメロ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
びわ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
もも	0.2	0.1	0.1	0.8	0.0
ネクタリン	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
アンズ(アブリコットを含む。)	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
すもも(ブルーンを含む。)	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0
おうとう(チェリーを含む。)	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
いちご	7	2.1	2.8	0.7	0.7
ラズベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ブラックベリー	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ブルーベリー	2	0.2	0.2	0.2	0.2
その他のベリー類果実	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ぶどう	1	5.8	4.4	1.6	3.8
アボカド	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
パッションフルーツ	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
ひまわりの種子	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
綿実	0.05	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
クルミ	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0
カカオ豆	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0
ホップ	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のスパイス	5	0.5	0.5	0.5	0.5
その他のハーブ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
陸棲哺乳類の肉類	0.3	17.3	9.9	18.2	17.3
家禽の肉類	0.2	4.0	3.7	3.2	4.0
家禽の卵類	0.01	0.4	0.3	0.4	0.4
魚介類	0.1	9.4	4.3	9.4	9.4
計		403.0	237.3	360.4	384.2
ADI比 (%)		34.4	68.3	29.5	32.2

高齢者については畜水産物の摂取量データがないため、妊婦については家きんの卵類及び水産物の摂取量データがないため、国民平均の摂取量を参考とした。

TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

(参考)

これまでの経緯

昭和59年	2月	3日	メタラキシル（ラセミ体制剤）初回農薬登録
平成17年	11月	29日	残留農薬基準告示
平成19年	5月	10日	農林水産省から厚生労働省へメタラキシルMの農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（新規：ピーマン、みょうが等）
平成19年	5月	22日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成21年	3月	5日	食品安全委員会から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成22年	8月	10日	残留農薬基準告示
平成22年	8月	5日	農林水産省から厚生労働省へ基準設定依頼（魚介類）
平成22年	9月	9日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成22年	12月	20日	インポートトレランス設定の要請（しゅんぎく、セロリ等）
平成23年	7月	7日	食品安全委員会から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成23年	11月	18日	薬事・食品衛生審議会へ諮問
平成23年	11月	29日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成24年	7月	25日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

石井 里枝	埼玉県衛生研究所水・食品担当主任研究員
○大野 泰雄	国立医薬品食品衛生研究所長
尾崎 博	東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学教室教授
斉藤 貢一	星薬科大学薬品分析化学教室准教授
佐藤 清	一般財団法人残留農薬研究所業務執行理事・化学部長
高橋 美幸	農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所上席研究員
永山 敏廣	東京都健康安全研究センター食品化学部長
廣野 育生	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授
松田 りえ子	国立医薬品食品衛生研究所食品部長
宮井 俊一	一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問
山内 明子	日本生活協同組合連合会執行役員組織推進本部長
由田 克士	大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授
吉成 浩一	東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野准教授
鱒淵 英機	大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授

(○：部会長)